AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

INDEX
目次

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

PROGRAM 1 特別褒賞 JCプログラム P06

セミナー回数部門
2022年度新規ヘッドトレーナー
アシスタント回数部門

PROGRAM 2 最優秀LOM地域社会向上プログラム賞 P08

未来をデザイン～わたしたちが創る出雲の未来～ 一般社団法人 出雲青年会議所
縁日参りプロジェクト～ヨルモウデ～ 一般社団法人 豊川青年会議所
大科学博士になろう！～飛び込め！不思議の世界～ 一般社団法人 神戸青年会議所

PROGRAM 3 最優秀LOM個人能力開発プログラム賞 P12

なにわ淀川花火大会 ～地域で支える大輪の花 一般社団法人 大阪青年会議所
24区活性化事業（子ども食堂） 一般社団法人 大阪青年会議所
青少年育成事業 一般社団法人 神戸青年会議所

PROGRAM 4 最優秀LOM拡大開発プログラム賞 P16

会員拡大事業 公益社団法人 仙台青年会議所
GIFU LEAD TOWN ～未来のぎふのまち体験イベント～ 一般社団法人 岐阜青年会議所
「今こそ必要な若者たちのリーダーシップ」 一般社団法人 町田青年会議所
並びに2022年度「会員拡大戦略の立案及び実施」

PROGRAM 5 最優秀LOM持続可能な開発目標プロジェクト賞 P20

SDGs体験MATSURI 公益社団法人 東京青年会議所
みなとダイバーシティフェスティバル2022 公益社団法人 東京青年会議所
高齢者チャレンジプロジェクト 公益社団法人 呉青年会議所

PROGRAM 6 最優秀組織間協働プロジェクト賞 P24

さかなクンと考えよう！なかつのミライ 公益社団法人 中津青年会議所
#deleteC大作戦byJCI京丹後 一般社団法人 京丹後青年会議所
アドベンチャースクール2022～夢への第一歩！ 公益社団法人 袋井青年会議所
持続可能な防災に強いまちづくりのために～

PROGRAM 7 最優秀LOM国際協力プログラム賞 P28

FUN FUN Cooking 一般社団法人 大阪青年会議所
みやざきインターナショナルフェスタ～ワールドテラス～ 一般社団法人 宮崎青年会議所
世界をもっと知ろう ～new discovery～ 公益社団法人 吹田青年会議所

PROGRAM 8 最優秀LOM起業家精神プログラム賞 P32

YOKOHAMA after College 2022 Startup!! Fundamental Training Practical Course — 一般社団法人 横浜青年会議所
アントレプレナー育成事業「アントレプレナーシップで環境課題を解決しよう」 — 公益社団法人 長野青年会議所
Make Money Presentation in豊川JC ～人生をつかみとれ～ — 一般社団法人 豊川青年会議所

PROGRAM 9 最優秀JCI RISEプロジェクト賞 P36

PROGRAM 10 最優秀外部資金活用プロジェクト賞 P38

第41回横浜開港祭 — 一般社団法人 横浜青年会議所
第3回こもろふれ愛フェスティバル — 一般社団法人 小諸青年会議所
第51回新庄雪まつり — 公益社団法人 新庄青年会議所
大船渡青年会議所電力 — 一般社団法人 大船渡青年会議所

PROGRAM 11 最優秀中期ビジョン策定プロジェクト賞 P43

中長期ビジョン策定事業 — 一般社団法人 徳島青年会議所
みんなで地域の未来ビジョンを作ろう！「NANAO GIFT 2040」 — 一般社団法人 七尾青年会議所

PROGRAM 12 最優秀会員会議所賞 P46

公益社団法人 金沢青年会議所
一般社団法人 静岡青年会議所

PROGRAM 13 最優秀理事長賞 P48

PROGRAM 14 最優秀会員賞 P50

PROGRAM 15 純増部門 優秀拡大LOM賞 20名以下の部 P52

一般社団法人 西条青年会議所
一般社団法人 東伯青年会議所
一般社団法人 もとみや青年会議所

PROGRAM 16 純増部門 優秀拡大LOM賞 30名以下の部 P54

一般社団法人 児島青年会議所
一般社団法人 鹿島青年会議所
一般社団法人 羽生青年会議所

PROGRAM 17 純増部門 優秀拡大LOM賞 50名以下の部 P56

一般社団法人 おおさき青年会議所
一般社団法人 千歳青年会議所
一般社団法人 山城青年会議所

PROGRAM 18 純増部門 優秀拡大LOM賞 75名以下の部 P58

一般社団法人 八代青年会議所
一般社団法人 上田青年会議所
一般社団法人 町田青年会議所

PROGRAM 19 純増部門 優秀拡大LOM賞 110名以下の部 P60

一般社団法人 佐賀青年会議所
一般社団法人 鳥取青年会議所
公益社団法人 福井青年会議所

PROGRAM 20 純増部門 優秀拡大LOM賞 111名以上の部 P62

一般社団法人 札幌青年会議所
公益社団法人 鹿児島青年会議所
公益社団法人 埼玉中央青年会議所

PROGRAM 21 単年度部門 優秀拡大LOM賞 20名以下の部 P64

一般社団法人 西条青年会議所
一般社団法人 東伯青年会議所
一般社団法人 鉾田青年会議所

PROGRAM 22 単年度部門 優秀拡大LOM賞 30名以下の部 P66

公益社団法人 青森青年会議所
一般社団法人 かずさ青年会議所
一般社団法人 羽生青年会議所

PROGRAM 23 単年度部門 優秀拡大LOM賞 50名以下の部 P68

一般社団法人 桐生青年会議所
一般社団法人 おおさき青年会議所
一般社団法人 山城青年会議所

PROGRAM 24 単年度部門 優秀拡大LOM賞 75名以下の部 P70

一般社団法人 東大阪青年会議所
一般社団法人 町田青年会議所
一般社団法人 泉青年会議所

PROGRAM 25 単年度部門 優秀拡大LOM賞 110名以下の部 P72

一般社団法人 高槻青年会議所
公益社団法人 春日井青年会議所
一般社団法人 寝屋川青年会議所

PROGRAM 26 単年度部門 優秀拡大LOM賞 111名以上の部 P74

一般社団法人 神戸青年会議所
一般社団法人 枚方青年会議所
公益社団法人 相模原青年会議所

PROGRAM 27 理念共感拡大賞 P76

一般社団法人 神戸青年会議所
公益社団法人 相模原青年会議所
一般社団法人 泉青年会議所

PROGRAM 28 多様性拡大賞 P78

一般社団法人 おおさき青年会議所
公益社団法人 春日井青年会議所
一般社団法人 もとみや青年会議所

PROGRAM 29 LOM支援賞 P80

一般社団法人 西条青年会議所
一般社団法人 東伯青年会議所
一般社団法人 鉾田青年会議所

PROGRAM 30 アンケート P82

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

特別褒賞
JCプログラム

特別褒賞
JCプログラム

1年間トレーナーとして活躍された総勢15名のトレーナーの皆様を表彰させていただきます。

セミナー回数部門

川端　康寛君
大阿久友伸君
加藤　三佳君
新谷　大輔君
矢野　陽一君
菊池　久範君
芟花　英寿君
木下　雄一君
道明　陽介君
澤田　健吾君
渡守　紘宜君

2022年度新規ヘッドトレーナー

2022年度新規ヘッドトレーナーで1回以上セミナーを開催した方を表彰します。

巖　晃司君

アシスタント回数部門

2022年度アシスタント回数の多かった方を表彰します。

加門　久征君
巖　晃司君
川端　康寛君
島津　明香君
菊池　久範君
髙木孝太郎君
木下　雄一君

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀LOM
地域社会向上プログラム賞

最優秀LOM地域社会向上プログラム賞

未来をデザイン
～わたしたちが創る出雲の未来～

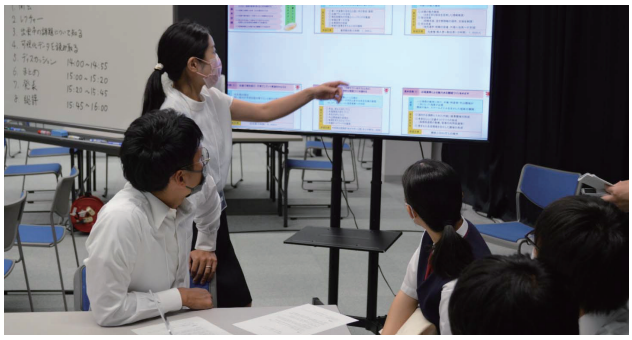
一般社団法人　出雲青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

世界が大きく変わっていく現代において、明るい未来はどうしたら実現できるのだろう。我々、出雲青年会議所は地域のために何ができるのだろう。模索しながらたどり着いた答えは、こんな世界を作りたいと夢を創造し、テクノロジーを活用して「未来をデザインする」ことができる「未来をつくる人」を育てることでした。ワークショップを通して、まちの未来を担っていく高校生に技術と課題解決能力を学んでいただきました。誰もが快適で活力に満ちた生活を送れる社会の実現に向けて、多くの未来デザイン案が生まれました。難しい内容だったと思いますが、高校生の自由な発想は我々の想像を凌駕しとても感動させられました。我々、出雲青年会議所が起点となった小さな一歩から、出雲市役所や島根大学を巻き込んだ一歩となり、地域のための着実な一歩であったと確信しています。本事業は当該年度で終了しましたが、その後は市役所と島根大学、市内各高校が連携して、「未来をつくる人」の育成を行っていただいております。この運動がより良い未来へつながることを祈念しています。

事業背景

日本の名目GDPは1９９５年以降、平行線を辿り、世界的なアップトレンドに乗れていない一人負け状態となっております。テクノロジーを活用した企業が中心となっていき、リアル空間でのスケールだけがものを言う時代は終了し、技術をテコに世の中をアップデートできる企業に企業価値が生まれています。未来を妄想しカタチにする「未来をつくる人」を育成できていない、人財育成の問題であると考えます。そのような企業を育てていく社会構造が必要であり、市民（行政、教員、保護者、教育委員会、生徒、青年会議所）がこれからの時代に向けて共に学ぶ必要があります。



事業目的

「未来をつくる人」とは何かを考え、それを支え、育てていく社会構造の必要性を学ぶことを目的とします。
技術と課題解決能力を学び、未来を自分の力で創っていく必要があると認識していただきます。
出雲市民には、変化していく時代を学び、新技術を活用できる「未来をつくる人」に投資する必要性を認識していただきます。

事業概要

出雲市内高校生に向けた未来デザインワークショップを開催しました。未来デザインワークショップの内容は出雲市が保有しているオープンデータを使用し、島根大学数理、データサイエンス教育研究センターに出雲市のデータを分析していただくと共に、データを可視化していただきました。課題の解決手法は、未来を妄想する力を意識していただき、島根大学数理、データサイエンス教育研究センターとJCI出雲のメンバーがアドバイザーとなり、未来デザイン案を作成していただきました。未来デザイン講演会では、ビッグデータやAIがどのように社会を変えていくのかをレクチャーし、変化していく時代を市民が共に考える講演といたしました。
当日は優秀な未来デザイン案を未来デザイン賞、構想力賞、データサイエンス賞として表彰しプレゼンテーションを行いました。

地域社会への影響

この事業を通して、地域のステークホルダーがパートナーシップを構築したことで様々な変化がおきております。出雲市役所では島根大学数理、データサイエンス教育研究センターが講師となり、市役所職員向けのデータサイエンス研修が行われました。その後、担当していただいた出雲市のCDO(チーフデジタルオフィサー)補佐官として登用された方が島根大学の公開講座に出演するなど良好な関係が続いています。島根大学数理・データサイエンス教育研究センターは本事業で行った未来デザインワークショップのプログラムを再編成して、大学生に向けた後期講義(オープンデータを分析して課題を発見し解決する講義)が実施され、毎年行うことになりました。2022年度は出雲市教育委員会が中学生を対象に市の課題を解決する、考える場を提供するイベントが計画されています。

一般社団法人　出雲青年会議所

住所　島根県出雲市塩冶有原町1-44
理事長名　森山恵介　電話 0853-22-3700　E-mail　info@izumojc.com

最優秀LOM地域社会向上プログラム賞

縁日参りプロジェクト
～ヨルモウデ～

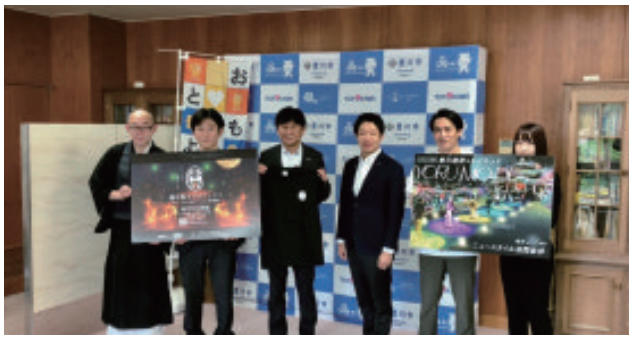
一般社団法人　豊川青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

豊川青年会議所のみんなで力を合わせて、本事業を立ち上げることができました。またＷｅＢｅｌｉｅｖｅに掲載していただいたり、今回ノミネートしていただけたことで、全国の仲間たちへ豊川青年会議所の魅力と事業を発信でき、とても嬉しく思います。

事業背景

我が国は人口減少という大きな社会問題を抱えており、それはわがまち豊川にとっても例外ではありません。まちの人口減少は健全な経済活動の維持を困難にさせます。こうした負の連鎖を断ち切るために、2021年度、観光グループとして交流人口の拡大について注目します。
現在、新型コロナウイルスの影響における観光業の鍵として、車で30分から1時間程度で行ける地元観光、いわいるマイクロツーリズム市場が注目されています。我がまち豊川には日本三大稲荷である豊川稲荷があり、年間約500万人が訪れる愛知県有数の観光資源として確立されていますが、大晦日、正月以外のシーズンに観光客が減少する課題があります。そのため、定期的に観光客が来る仕組みをつくることが必要です。



事業目的

豊川稲荷及び周辺地域を活かし、定期的な観光客を呼ぶ継続性のある仕組みをつくることを目的とします。

事業概要

豊川稲荷の縁日である毎月22日、宵(夕方～夜間)の縁日参りを開催し、近隣商店街と一体となり夜市等を並行して行うことで、市内外の多くの参拝観光客の取り込みを図りました。本事業が目的を果たし継続していくよう、［運営管理］、［パートナーシップ］、［発展性］という3つの柱とした仕組み作りを段階的に実施してまいりました。本事業の背景に加えて、例年正月シーズンは150万人が訪れてきましたが2021年は新型コロナウイルスの影響により26万人の来場者数に留まり、まちに大きな経済的ダメージを与えました。課題解決に向けてターゲットを、市外の若者や経営者層(賑わいや、商売繁盛を願う方々)が時間帯的に毎月参拝に来やすく、年末年始や初詣参拝期間、秋の大祭で賑わいを見せている夜間が良いと考え実施いたしました。

地域社会への影響

豊川稲荷や商店街、周辺地域に起きた意識改革。この事業をきっかけに豊川稲荷にて境内でのヨルモウデを盛り上げるための環境整備工事やヨルモウデ限定御朱印、FOXMASK(狐面)人気商品ができ、新たなコンテンツが生み出されました。豊川稲荷内部もヨルモウデのために再組織化され、継続して行う体制作りへと移行し、豊川稲荷自らライトアップ演出を追加するなど積極的な企画提案をいただけるようになりました。商店街も連携プラン(浴衣レンタルプラン、土産づくり)や商品開発を意欲的に取り組む店舗が増加してきています。
地域の高校からボランティアの参画や、部活動の連携依頼を受けるようになりました。本事業を三位一体となり行う体制ができつつある中で、更なる地域活性化を図るための長野市善光寺視察ツアー（豊川稲荷、青年会議所、商店街、行政、その他商工会議所等の団体）が組まれるなど、まちづくりへの意識が向上しています。

一般社団法人　豊川青年会議所

住所　愛知県豊川市豊川町辺通４－４　豊川商工会議所内
理事長名　滝下豊　電話 0533-86-9223　E-mail　jcroom@toyokawa-jc.jp

最優秀LOM地域社会向上プログラム賞

大科学博士になろう！
～飛び込め！不思議の世界～

一般社団法人　神戸青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度、小学生を対象とした学びの機会創出及び他団体継承事業を実施しました。神戸市の抱える学習課題に着目し、解決策を盛り込んだ事業の実施と事業構築段階からスキームを作り、他団体でも継承できる仕組みづくりを行いました。幸せを生み出し続ける装置としてどんな役割を果たせるか、考え抜いて走り切った1年間となりました。

事業背景

まちが継続的に発展するためには、子供たち自身の将来を切り拓く力が不可欠です。コロナ禍により体験学習の機会が減少する中、子供たちが自在に夢を描ける地域環境を整えるために、行政や地域と連携して神戸のまちで新たな運動を展開していくことが必要です。

事業目的

多様な体験学習を通じて子供たちの科学的思考や多角的な視点を養います。これにより自身がもつ可能性を実感してもらい、神戸の将来を担う子供たちの学習意欲や自己肯定感の向上を図ります。神戸のまち全体で子供たちが継続的に学びを得られる環境作りの一助とします。

事業概要

小学生を対象とした学力調査による理科の成績低下に対しアンケート結果で分かった「理科の授業は楽しい」という多数の意見、加えて行政へのヒアリングで分かった課題感をもとに、コロナ禍により体験学習の機会が奪われ教科書による学習に偏重している可能性が高いことが分かりました。子供たちにもう一度理科への意欲を高めてもらい、意欲を持続させるために継続的な体験学習ができる環境を創出するため、行政から地域の事情等事業構築に欠かせない情報をコンスタントにご教示いただき、関連する各行政機関とのハブ役としてご支援いただきました。地域の連携（在神企業、在神団体）では、3週間に1度事業構築会議を実施し、事業の進捗や問題点を共有しながら、出展内容の重複がないよう調整を図ったり、事業実施する上で想定できる障壁を早期把握しました。頻回に会議をおこなうことで、出展企業同士が早期に顔合わせできるというメリットもあり、イベント出展経験豊富な企業・団体からは事業全体へのアドバイスもいただくことができました。

地域社会への影響

カウンターパートとして行政をはじめ多くの企業、団体に参画していただきました。子供達に特殊な最先端技術に触れていただくだけでなく、日常的に触れるものから理科や科学につながることに気付いてもらう仕掛けを施しました。次年度以降の事業団体が代わっても継続参画を決めて下さる企業、団体が多くいらっしゃり、また継続的な行政からの支援もしてもらえるようになり、地域課題への関心の高さと少しでも力になりたいという強い想いを持っていただいていることが分かりました。

一般社団法人　神戸青年会議所

住所　神戸市中央区港島中町6-1 神戸商工会議所会館6階
理事長名　小西毅　電話 078-855-8329　E-mail　sec@kobejc.or.jp

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀LOM
個人能力開発プログラム賞

最優秀LOM個人能力開発プログラム賞

なにわ淀川花火大会
～地域で支える大輪の花

一般社団法人　大阪青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

なにわ淀川花火大会は、地域の人々の手でつくりあげられる花火大会です。コロナ禍を乗り越え、3年ぶりの開催となった今年度、地域の人々の夢や希望をのせて夏の夜空を彩りました。運営協力を通じて、新入会員のリーダーの資質磨きの機会となった素晴らしい事業だったと確信しております。

事業背景

感染症拡大による不安や困窮の拡がりが社会や人の弱さを露呈する一方、人々のつながりやライフスタイルも大きく変化しています。今こそ、しなやかな思いやりと周囲の個性を輝かせる強さをもち未来を見据え困難に臆せず誠実に行動し続けるリーダーが必要です。

事業目的

思いやりの心で共に挑戦し続ける覚悟を携えたリーダーを育成します。

事業概要

支え合いによりつくり上げられてきた都市が誇る魅力から人々が都市をこよなく愛する想いを呼び覚ます機会を提供することで、思いやりで溢れる人々とつながり合う明るい未来へ向け共にあらゆる課題に立ち向かい続けていく強い信念を抱いてもらいました。

① リーダーズ会議の実施
② 本事業　第34回なにわ淀川花火大会
③ 事前オリエンテーション開催と広報活動
④ 翌日清掃

地域社会への影響

元々行政等の力を頼らず、地域ボランティアの力だけで運営しているなにわ淀川花火大会は、今年で34回となる盛大な地域イベントです。コロナ禍で中止を余儀なくされた2年間を乗り越え、3年ぶりに実施できたことは事業対象者である新入会員はもちろんのこと、地域の方や来場者の方々にも地域の底力と今後も継続していきたい強い意識を醸成しました。前日に100箇所に合計600個のゴミ箱を設置する作業から当日のゴミ清掃、翌日のゴミ拾いまで地域に大きく貢献しました。当日は、一般来場者20万人にお越しいただき、久しぶりの花火に感動いただいた方も多数いらっしゃいました。

一般社団法人　大阪青年会議所
住所　大阪市港区弁天1－2－30オーク4番街401号室
理事長名　梶本秀則　電話 06-6575-5161　E-mail　ojc-office@osaka-jc.or.jp

最優秀LOM個人能力開発プログラム賞

24区活性化事業（子ども食堂）

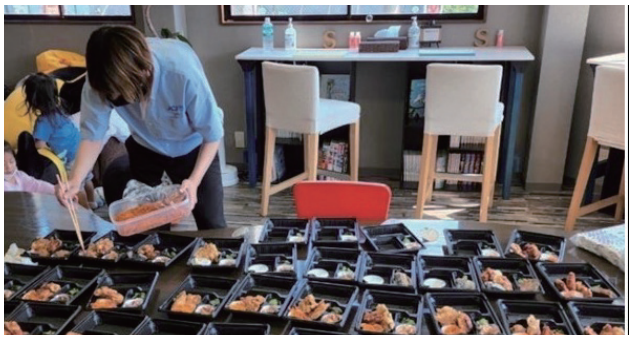
一般社団法人　大阪青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

指導育成の一環として本年度の新入会員が一丸となり企画、運営を行いました。物品協賛や寄付金など外部の方々にも多大なるご支援をいただきました。地域の連携により子供達の笑顔が溢れる新規事業となりました！

事業背景

感染拡大による不安や困窮の拡がりが社会や人の弱さを露呈する一方、人々のつながりやライフスタイルも大きく変化しています。今こそ、しなやかな思いやりと周囲の個性を輝かせる強さをもち未来を見据え困難に臆せず誠実に行動し続けるリーダーが必要です。



事業目的

地域の発展と課題解決に挑戦し続ける情熱に溢れるリーダーを育成します。

事業概要

新入会員の指導、育成の一環として、本事業では1日子供食堂の運営に向けた外部協力の獲得を目指しました。実施に向けたカウンターパート、各種協賛を対外に依頼する過程で、今後の事業構築における外部連携のノウハウを学んでもらいました。事業本番においては市内各所にて1日子供食堂を実施し、地域の子供に向けて食育や大阪の歴史を学ぶレクリエーション企画を行い、子供食堂の持続的な運営に向けた説明会を実施しました。

地域社会への影響

事業実施に向けた準備段階として、大阪市全区に本事業の開催趣旨説明と協力を依頼を行い、SNSや各種企業・団体訪問において協賛したことで、当日の子供食堂だけに止まらず、広く市民の方々に事業への理解と共感を拡げることができました。

一般社団法人　大阪青年会議所

住所　大阪市港区弁天1－2－30オーク4番街401号室
理事長名　梶本秀則　電話 06-6575-5161　E-mail　ojc-office@osaka-jc.or.jp

最優秀LOM個人能力開発プログラム賞

青少年育成事業

一般社団法人　神戸青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度、大学生を対象とした産官学連携推進事業を実施しました。年間に渡り企業とまちが抱える課題を学生と一緒に解決していく過程で在神企業やまち、人の魅力に触れてほしいという想いで1年間走り切りました。関わらせていただいた学生が将来大人になり、参加した事業のこと、関わったJCメンバーを思い出し、今度は未来の学生に機会を提供する側として関わってもらえたらと思っています。

事業背景

神戸のまちが持続して発展していくためには、未来を担う若者が神戸で活躍し続けられる環境でなければなりません。若者に愛されるまちとしてJ CI神戸が率先して学生と企業をつなぐ懸け橋となり、つながりから多くの経験ができる機会を創出し続ける必要があります。

事業目的

本事業を通じて学生が地域貢献活動に参加することで、多くの企業や青年経済人と関わり合い、共に神戸のまちの発展に寄与する意識を醸成し、神戸で理想の生活スタイルをかなえてもらう機会となることを目的とします。

事業概要

JCI神戸ユース事業
在神企業へ1DAYインターンシップに伺い、企業が抱える課題の解決策を考え、JCI神戸が実施する事業、Kobe Love Port・みなとまつり・Autumn Festival in KOBEにて解決策に紐づいたブース出展を行いました。企業と共に地域貢献活動に触れることで、企業や地域への理解を深め、魅力を感じてもらうことで、神戸のまちと共に成長したいと感じてもらうきっかけづくりの活動を行ないました。
産官学連携事業(New KOBE New Self)学生が企業や行政の直面している課題に対して解決策を考える過程の中で、企業やまちの魅力に気付き、神戸の企業で活躍するきっかけづくりの事業です。カウンターパートの課題を抽出し、各大学のゼミ単位でチームを組み、中間発表、最終プレゼン大会に向けて、学生と企業が共に解決策を考え、発表してもらいました。

地域社会への影響

本事業では地域の学生と在神企業をつなぐことを目的として構築してきました。その背景には様々な要因がありますが、まずは神戸のまちの魅力、数多くある在神企業の魅力に神戸の学生に気付いてもらい、将来神戸で活躍してもらいたいという想いがあったからです。コロナ禍でリアルな交流が全くなかった学生にとっては企業の人やJCI神戸のメンバーでもある青年経済人とリアルで関わることにより多くの刺激や学びを得てもらうことができました。実際に事業終了後も継続して企業と学生とが結果の検証及び改善までおこなっています。

一般社団法人　神戸青年会議所

住所　神戸市中央区港島中町6-1 神戸商工会議所会館6階
理事長名　小西毅　電話 078-8558329　E-mail　sec@kobejc.or.jp

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀LOM
拡大開発プログラム賞

最優秀LOM拡大開発プログラム賞

会員拡大事業

公益社団法人　仙台青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

SDGsに関する事業、会員拡大に関する事業を申請いたしました。JCI仙台だからできる取り組みではなく、他LOMにおいても実施できる内容となっております。是非、今後の参考にしていただければ幸いです。

事業背景

まちを発展させていくためには、LOMの成長が必要だった。そのためにはLOMの人財の増加と育成が必要だった。しかしLOMメンバーの中には会員拡大の目的も拡大の仕方もわからない人がいた。本来JCの役割は運動を行うことでまちの課題を解決することだが、現状はLOMメンバー向けの事業が多くなっていた。
LOMメンバー向けの事業が多くなってしまう原因はLOMの人員不足も要因の1つだった。JCの役割を果たすためにも、LOMの会員数拡大が必要であった。LOMメンバーが自身の成長やまちの発展のために行うべき運動の責任を解し、拡大の重要性を理解する必要があった。まちのため、JC運動を継続的にする組織としてさらに進化する必要があった。LOMメンバーが会員拡大の仕方を学ぶ必要があった。拡大するために外部協力者と連携基盤をつくる必要があった。

事業目的

JCI仙台全体でLOM会員数の拡大を目指すために行われた。LOMメンバーがまちのリーダーとして、自身がまちの未来を担っているという自覚が芽生えるために行われた。LOMメンバーの成長、まちの発展、市民の地域愛の育成、これらを果たすためのLOMのビジョンとミッションを再確認するために行われた。まちのために活動する会員数の増加とLOMメンバーと新入会員の能力開発につなげるために行われた。

事業概要

LOMの会員数の大幅拡大に向けて事業を行った。
1「会員拡大セミナー」　担当委員長や卒業生を外部講師としLOMメンバーを対象に講演を行った。会員数増加を目指すため、2022年は3回に分けて新入会員の入会を行い、機会を増やすこととした。
2「組織拡大会議」　組織ごとに入会候補者のリストアップをし、拡大状況の確認を行うことを目的に6か月間に渡り毎月1回開催した。LOMメンバーが他LOMの拡大手法や事例を学び、自身たちにも活かせるよう学び、会員拡大に繋げた。
3「新入会員セミナー」　例年はLOMの新入会員の入会タイミングは年1回だが、今年はより多くの会員を入会させるため3期に分けて入会を行い、新入会員セミナーも3期に分けて行われた。新入会員の入会が3期に分かれていることにより、先に入った新入会員が、次の期に入会した新入会員の事業構築のサポートをし、JC論を教えあうことで成長の機会の連鎖となる仕組み作りを行った。
結果として、前年の新入会員数に比べ、大きな会員数増加に繋げた。（新入会員数　前年比+300%。前年はコロナウイルスの影響も受け例年の2/3程度の入会）

地域社会への影響

LOMメンバーが200名候補者をリストアップし、その内130名に面談、勧誘を行った。前年の候補者は50名リストアップ、その内面談が30名だった。前年より多くのリストアップ、面談を行ったことでLOM認知度が高まった。LOM認知度が高まることで、LOMに入会する意欲や機会の増加につながった。結果、前年比+300%の会員数増加につながったLOMメンバーが130名の入会候補者への面談を行い、企業スポンサーや政府関係者からも新入会員の入会があったため、面談や勧誘活動を通してLOMのブランド認知度向上につながった。

公益社団法人　仙台青年会議所
住所　宮城県仙台市青葉区本町2－6－12　仙台商工会議所ビル8F
理事長名　八重樫　司　電話 022-222-9788　E-mail　office@sendai-jc.or.jp

最優秀LOM拡大開発プログラム賞

GIFU LEAD TOWN
～未来のぎふのまち体験イベント～

一般社団法人　岐阜青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

私たちは2020年に新ビジョンとして「ひとびとが躍動し持続発展するまち ぎふ」を策定し、ぎふのまちに必要な最大要素として、「若者の力の発揮」「多様なひととのつながり」「居心地のよい土壌づくり」の3つを運動方針として定めました。ビジョン策定一年目となる2021年度、「若者の力の発揮」に着目し、15歳から24歳の若者を約250名集め、「10年後も若者が住みたくなるまち」をテーマに40の政策案を作成し、行政に提言致しました。政策を作成するにあたってJCI岐阜に集まった多くの若者な声と発想を元に、ビジョン策定2年目としての2022年では、10年後に新ビジョンを達成するためにバトンをつなぐ事業を構築していこうと考えました。「多様なひととのつながり」に着目し、ぎふのまちのあらゆる世代の市民や、企業、各種団体、行政などあらゆる立場のひとと共に「10年後も若者が住みたくなるまち」をどうすれば実現できるのか仮説を作り、実証実験を行おうという考えに至りました。それが今回のGIFU LEAD TOWN～未来のぎふのまち体験イベント～です。若者の住みたくなるまちの実現は、若者だけでは不可能です。それぞれがポジティブな見解をもちそれを活動に活かすことで、個性的な発想や、魅力的な取り組みが生まれます。だからこそ、ひととひとが支え合う仕組みが必要なのです。これがこの事業の経緯になります。私たちはこれからもこのビジョンを実現するために、バトンを渡す事業を構築し続けて参ります。そして必ず、掲げたビジョンを実現していきます。

事業背景

10年先を見据えて新たに策定されたまちづくり運動ビジョンの達成の第一歩として、ぎふのまちに若者がムーブメントを起こし、若者が活躍できる環境をつくるきっかけとして、岐阜市近郊に住む15歳～24歳の若者を対象に「GIFU　YOUTH MEETING～若者政策コンテスト～」を実施しました。しかし、若者が10年後も住み暮らしたいまちを実現させるためには、若者と多様なひとがそれぞれの見解を生かして互いに関わり合うことで若者にとって魅力的な取り組みを生み出す必要があります。そこで、若者と多様なひとが関わり合い、誰もが幸せに住み暮らす手がかりを見つけるには様々なアイデアを出し合い、魅力的な取り組みを創出し、その取り組み成果を多くの市民に伝え、未来につないでいく起点となる本事業を実施しました。

事業目的

若者のアイデアに年齢や属性が異なる多様なひとのアイデアを掛け合わせることで、ぎふのまちが住み暮らしたいまちとなっていくことを感じていただきます。若者には、自身のアイデアが実現されていくことを実感することで、まちづくりへの主体者として主体的に関わりをもちたいと感じていただくとともに、夢や希望をぎふのまちで実現できることを知っていただき、これからもぎふのまちに住みたいと感じていただくきっかけとします。市民には、若者のアイデアを実現していくことが自分たちにとっても住み暮らしたいまちにつながっていくことに期待を感じていただきます。

事業概要

昨年度行った「10年後も住み暮らしたいまち」をテーマに、提言された40の政策を10のカテゴリーに分け、市民調査で得た市民からの声と年齢や属性の異なる多様なひとが集まった実行委員会での議論をもとに、政策の実証実験を行いました。そして、その成果を広く市民が体験できる場を設け、若者のアイデアが具体的に実現されることを知ってもらうことで、若者が住みたくなるまちへの期待感をもっていただきました。そして、取り組みを引き継ぐ企業を募り、政策を未来へつなぐこととしました。

地域社会への影響

来場者アンケートにて「政策の実現によって、ぎふのまちは若者が住み暮らしたいまちになると思うか」という設問に、９６％の方より肯定的な回答をいただきました。また、市民の方からは若い世代が参加することで、今後の将来へつながりより良いまちまちづくりを行うことができる、挑戦する人が増えれば、新しいものが生まれ、面白いまちになる、若者に魅力的なもので若者の流出を防いで欲しい、と若者にとってだけなく、多くの市民の方にとって今回の取り組みが前向きにとらえられ、若者とまちづくりについて考えていくきっかけになったと思います。

一般社団法人　岐阜青年会議所

住所　岐阜県岐阜市神田町2-2
理事長名　八代　宗太郎　電話 058-264-8091　E-mail　info@gifujc.or.jp

最優秀LOM拡大開発プログラム賞

「今こそ必要な若者たちのリーダーシップ」並びに2022年度「会員拡大戦略の立案及び実施」

一般社団法人　町田青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

このようなアワードに拡大部門でノミネートされて光栄です。2022年の一般社団法人町田青年会議所は持続可能な拡大運動を掲げ、期首64名スタートから61名の会員拡大を実現しました。良い結果が出るよう祈っております。

事業背景

日本では生産年齢人口の減少に伴い、1995年にアジアの中で首位であった国民一人当たりの名目GDPは2019年にはシンガポールや香港よりも低い水準となり、実質GDPの推移をみると中国、韓国といった近隣諸国と比べ成長しておらず、組織のリーダーの劣化が危惧されており、[プロジェクトT報告書（政府関係者経済財界関係者）参照] 町田市に於いても同様です。（町田市未来づくり研究所将来人口統計参照）その様な状況の中、リーダーの高齢化が進む企業や組織が成長を遂げるには若者世代のリーダー育成が急務となっております。

事業目的

リーダーシップの理解及びリーダーとしての行動意欲の向上。

事業概要

日本全土で問題となっていた人口減少や社会的役割を担っていた組織・団体・企業の消滅、その最中に起こった、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、今までの常識が覆され、ありとあらゆるものの見方、考え方の見直しを余儀なくされている中、最も重要とされたものとして「リーダーシップを発揮すること」が上げられており、本例会を通じて、自分なりのリーダーシップを考えるきっかけとすべく、本例会では、中村文昭氏を講師としてお招きし、御講演いただきました。

地域社会への影響

当会全体の拡大運動に対する意識変革を起こすことに成功しました。また、その結果、ＬＯＭの強固な組織基盤を形成し、新たに地域で活躍できる青年経済人を開発することに成功しました。そして、新たな仲間が青年会議所運動の修練を通しての自己研鑽をし、奉仕活動を通して地域貢献の一翼を担うことにより、新たな友情が育まれる魅力ある組織づくりを構築し「明るい豊かな社会の実現」に向けて活動し、理念を共有すること『持続可能な会員拡大運動』の基礎を構築、2023年度においても、2022年度に実施している異業種交流会JMACsを継続し、未だ地域に眠っている若手青年経済人の発掘・啓発・育成につなげ、町田市におけるまち・地域社会全体の活性化につなげることができました。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀LOM
持続可能な開発目標プロジェクト賞

最優秀LOM持続可能な開発目標プロジェクト賞

SDGs体験MATSURI

公益社団法人　東京青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

AWARDS JAPAN2022にノミネートいただきありがとうございます。
こちらの事業はJCI東京が定めた中長期ビジョンに沿った推進事業となります。社会にインパクトを与える事業とご評価いただき感謝申し上げます。

事業背景

企業が持続可能性を重視した経営方針に転換するSX（サスティナビリティ・トランスフォーメーション）は中小企業へのアプローチが行われておらず浸透していないところ、その入口としてSDGsへの取り組みが有効である。経済産業省と環境省は、企業のSDGsへの取り組みが持続的な発展に有効として推奨するが、2021年の調査では、大企業が90%の一方、中小企業は55%に留まっている。東京都北区では令和4年度より新規予算でSDGsへの取り組みを推進、翌年には北区版SDGsの認証制度を始めるとしているが、区内約12,000社の中小企業のうち、SDGsに取り組み、発信している企業は約0.1%である。北区行政には増加のインセンティブになるマーケットの創出という観点がないことがわかった。消費者の約34%は環境・社会へのメリットがわかれば購入したいと考える。SDGsに関心をもつ消費者及びSDGsに取り組む企業の増加は、企業の稼ぐ力に寄与し北区区内の企業のSX推進につながると考える。

事業目的

SDGsに今後も取り組みたいと思う企業が増加すること、SDGsに寄与したいと考える消費者が増加すること。本事業を通じてSDGsを活用した生産、消費行動を学び実践した対象者はサスティナビリティを重要な価値観とする能動的な企業、市民となっていく、それはSXの浸透につながっていく。

事業概要

企業には事前勉強会を通じSDGsに資する経済活動に取り組むことへのメリットを啓発。実践経済活動として、「SDGs体験MATSURI」をフェスティバル形式で開催した。消費者と企業とをつなぐ市場をつくり、企業は自社の取り組みの価値を再認識、持続可能性を高め、消費者は消費活動を行う責任を自覚し、企業を応援する存在となることを目指す事業である。イベント日は、大学生と企業3社との持続可能な商品の開発販売、企業のPRブース、行政の活動報告、SDGsアイドル「CoCoLo♡RiPPLe」コンサート、日テレ、東京ヴェルディベレーザ登壇講演を行った。感じたことを市民同士でシェアする市民の声を集めるSDGs行動宣言を集めた。開催日とは別に東京都北区行政との協議を重ね、企業のSDGsを通じてのSX普及促進のための提言なども行った。

地域社会への影響

SDGs体験MATSURIには、約3,242名もの来場者が訪れ、来場者の多くは、休日公園を利用する子育て世代を多く含む地域住民であったと考えられる。そのため、アンケートの結果も踏まえれば、本事業を行ったことで、地域社会におけるSDGsを共通言語とした経済活動への理解が進んだといえる。また自己の消費によって企業を応援する視点を取り入れることができた。SDGsを共通言語とした経済活動への参加企業は自社の行動に改めて価値と自信をもつことができ、SXが加速するといえる。

公益社団法人　東京青年会議所

住所　東京都千代田区平河町2-14-3 東京青年会議所2F
理事長名　山本健太　電話 03-5276-6161　E-mail　office@tokyo-jc.or.jp

最優秀LOM持続可能な開発目標プロジェクト賞

みなとダイバーシティフェスティバル2022

公益社団法人　東京青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

JCI東京では2021年より中長期ビジョンを掲げ、5か年で政策を推し進めています。社会にインパクトを与える事業となりますのでノミネートいただき光栄に思います。

事業背景

・人口減少、高齢化の状況下においては、将来的に、その地域における福祉需要（高齢者障がい者の見守り等）については、地域で一体となって地域のボランティアで担っていく必要がある。東京都港区には、多数の大使館があり外国人居住者が多いことをはじめ、多様な特性・価値観を有した人々（外国人、LGBTQ、女性リーダー、障がい者等）が居住しており、これらの住民も地域福祉の担い手、受け手となり得る。一方で、このような多様な特性、価値観を有する人々に対しては偏見が根強くあり、このような偏見を解消していかなければ、地域福祉の担い手、受け手が増加していかない。また、偏見の多くは感受性の強い若年の頃から形成されてしまう。そこで、若年層に対し、多様な特性、価値観を有した人々に対する偏見をなくし、福祉需要を担う地域ボランティアの増加を図る必要がある。

事業目的

地域において福祉需要を担うためには、地域に居住する多様な特性・価値観を有した人々が、それぞれに偏見なく相互に尊重しあえる社会となることが必要である。そのため、多様な特性・価値観（外国人、LGBTQ、女性リーダー、障がい者等）に触れる機会を提供し、それらに対する理解を促進する（ダイバーシティを推進する）ことで、社会からそれらに対する偏見をなくしていく。そのうえで、地域福祉の担い手となるボランティアを増加させるため、ボランティアプラットフォーム（ボランティア情報を提供するスマートフォンアプリ）の普及を促進していく。

事業概要

ダイバーシティを中心とした事業であるダイバーシティフェスティバルは、体験型のお祭り（イベント）であり、外国人、LGBTQ、女性リーダー、障がい者等、様々な特性を持った方々の考えや姿に触れることができる講演やブース出展などを行った。講演者としては、小池百合子東京都知事、女性経営者、障がい者YouTuber、LGBTQ活動家などに登壇いただき、ブースとしては、障がい者スポーツの体験会などを出展した。イベント当日は、ボランティアプラットフォームであるスマートフォンアプリの普及促進のため、ブースを出展し来場者にダウンロードを促した。
イベントの支援をしてくれるボランティアへの説明会、当日の様子を撮影した動画のYouTuberでのアーカイブ配信、行政機関へのボランティアプラットフォーム普及促進のための提言なども行った。

地域社会への影響

ダイバーシティフェスティバルには、約10,000名もの多くの来場者が訪れたところ、来場者の多くは、近隣の地域住民であったと考えられる。そのため、上記のアンケートの結果も踏まえれば、本事業を行ったことで、地域社会におけるダイバーシティへの理解が進んだといえる。本事業を通じて、多くの来場者がボランティアプラットフォームであるスマートフォンアプリをダウンロードしていることから、地域社会において、ボランティアに参加する人が増加していくといえる。東京都港区に対し、本事業の実施結果やアンケートの回答内容などを踏まえ、ダイバーシティの推進や、ボランティアプラットフォームの普及促進に関する施策の実施を提言した。

公益社団法人　東京青年会議所
住所　〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 青年会議所会館2F
理事長名　山本健太　電話 03-5276-6161　E-mail　office@tokyo-jc.or.jp

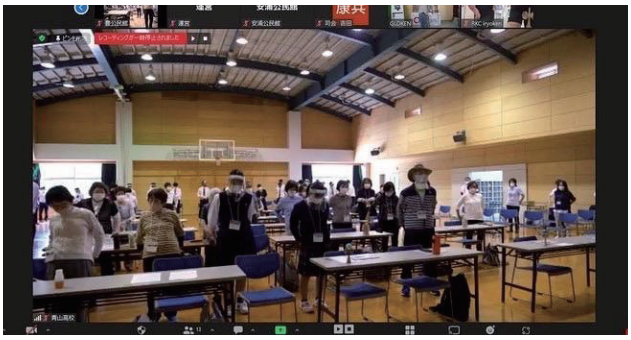
最優秀LOM持続可能な開発目標プロジェクト賞

高齢者チャレンジプロジェクト

公益社団法人　呉青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

AWARDS　JAPAN2022にノミネートされ大変感動しております。委員会スタッフだけでなく、多くの協力者、地域住民、そして呉青年会議所一丸となれたからこそできたことだと強く感じます。この結果に満足せず、日々精進していきたいと存じます。



事業背景

広島県呉市は人口15万人以上の都市で高齢化率が日本トップクラスの都市です。呉市人口ビジョンによれば、2040年には人口の約40%が65歳となります。アンケート調査によると、「生きがいがある」と答えた人の割合は約半数しかいません。高齢者への調査の結果、健康面や精神面で不安に感じることとして「友人など他者との関わりによる社会的役割の低下」が59.5%と最も高くなっています。健康面や精神的に充実しておらず、人とのつながりも薄い生活。これらの理由により自殺率、孤独死の割合が年々増えている現状も大きな問題の一つです。厚生労働省の調べでは、自殺者の約43%が70歳以上の高齢者であるという寂しい事実があります。また、日本で発生する孤独死は年々増加しています。2018年の東京都区部では、65歳以上の孤独死は3,867件も発生しています。地方都市においても同様に増えてきている現状があります。

事業目的

「1.人とつながる場を増やす」人口が減少し、高齢化が進む呉市。JCI呉は、呉市と協力して全域を対象とし、デジタルを活用したつながりを作り、孤立することを防ぐことで高齢者の精神的な不安感を取り除く環境をつくります。
「2.心身の健康から活力を生み出す」高齢者は老齢化によって体力が低下しています。高齢者の活力を生むには健康促進が必要です。JCI呉は、多くの方が参加しやすいけん玉を使い、心身をアクティブにする活動を行います。
「3.生きがいを見つける」呉市の約50%の高齢者が「生きがいがない」と答えています。これは日本の平均より高い数値です。JCI呉は高齢者の自身の経験を生かす機会や新たな試みを多くの人々と共有する機会をつくることで、社会的役割を得て生きがいを持てる機会を提供します。

事業概要

高齢者が人とのつながりをつくり、健康を維持し、生きがいを見つける事業を4つのプログラムに分け実施しました。
・ファーストステップ　　呉市が管轄する地域8か所を事業会場とし、各会場の音声と映像をZOOMでつなぎ、けん玉とLINEの使い方講座を行いました。参加者全員がけん玉を使い、体を動かす姿の写真・動画を撮り、事業公式LINEアカウントで共有しました。
・セカンドステップ　　1か月間で地域8か所をまわり、新たな参加者を交え、けん玉の再練習やLINE操作のフォローを行いました。
・サードステップ　　これまで練習した成果を発表する場として、ファーストステップ同様、地域8か所で会場を設置し、各会場をZOOMでつなぎ、イベントを実施しました。
・フォースステップ　　当プログラムから、生きがいや、人とつながる楽しさを見つけた高齢者が、地域の福祉施設や保育施設等へけん玉をレクチャーする機会をつくり、自ら社会的な役割を得ました。

地域社会への影響

高齢者が地域や人とのつながりから明るく前向きに生きがいをもつことが可能となりました。ICTについて、楽しく体験したいただくことで参加した高齢者のデジタルに対する苦手意識を取り除くことで、デジタルデバイドの解消につながった。その結果、事業の中で多くの参加者が呉市公式LINEに登録し、SNSから行政の情報やサービスなどを取得する高齢者が増えました。呉市の各包括支援センター管轄の団体(貯筋グループ、サロン)にて、新たな健康促進のツールとしてけん玉健康体操を取り入れられました。交流イベントやボランティア活動がコロナ禍において減少していました。しかしそのような中、福祉活動に積極的に参加したい高校生、大学生に高齢者との交流の機会をつくることができたと同時に、地域における課外活動を推進する学校の教育機会をつくりました。

公益社団法人　呉青年会議所

住所　広島県呉市本通4丁目8番12号呉商工会議所ビル南館内7F 704
理事長名　糸谷知剛　電話 0823-21-1081　E-mail　info@kure-jc.or.jp

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀
組織間協働プロジェクト賞

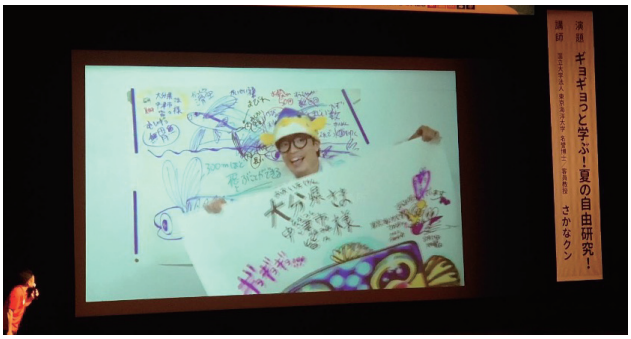
最優秀組織間協働プロジェクト賞

さかなクンと考えよう！なかつのミライ

公益社団法人　中津青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

この度AWARDS JAPAN2022にノミネートいただき本当にありがとうございます。本事業は、予定者段階からの調査により、中津の子供たちにSDGsをジブンゴトとして捉え、実践していただけるような事業をする必要がありました。県や市、中津の民間団体など多くの方の協力をもとに成功させることができました。素晴らしい事業であったと確信しておりますので、是非ともグランプリを受賞したいと思っています。

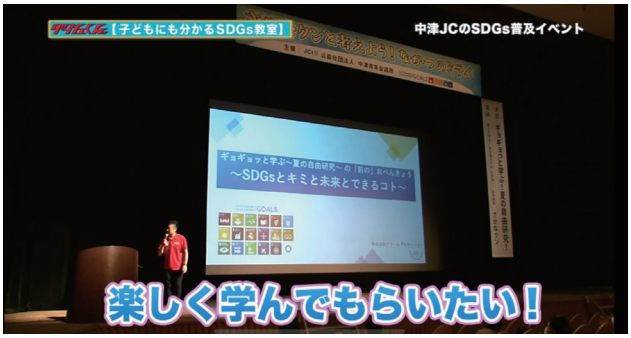


事業背景

2020年改訂の学習指導要領で「持続可能な社会の創り手の育成」が明記され、SDGsを理解し、自分たちに何ができるかを考えることが不可欠となりました。しかし、学校教育現場でＳＤＧｓに関する教育を積極的に行っているとは言えず、目標達成年である2030年の未来のことを考える機会が少ないのが現状です。そこで、SDGsについて学び、持続可能な社会づくりのためにできることがないかを考える機会を提供する必要があります。

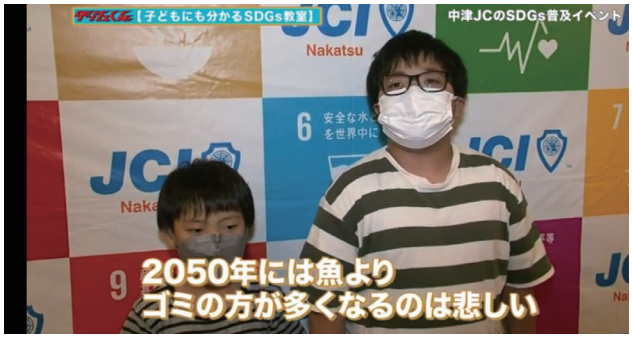
事業目的

SDGsをジブンゴトと捉え、小学生の自分にもできることがあるということを実感していただきます。



事業概要

SDGsについて、まだ、中津市内で浸透しているとは言えない状況であるため、SDGsは難しいことではなく、身近なことから取り組むことができるということを感じていただきたく、講師に「つだつよし、」さんと「さかなクン」様を招いての講演会を開催しました。SDGsの目標達成年度である2030年には、今の10歳の子が成人を迎えることとなるため、今のうちから自分たちの未来について、考えていただきたいと考え、対象者は、中津市近郊に在住の小学生及びそのご家族としました。始めに大分で子供の夢を応援する活動をされており、またＳＤＧｓにも積極的に取り組んでいらっしゃる「つだつよし、」様より会場の皆さんに向けてSDGsのミニ講座をしていただき、その後に海やお魚の知識では右に出るものはいない「さかなクン」様にご登場いただきました。昨今の新型コロナウイルス感染症の影響も鑑み、「さかなクン」様には、会場の大スクリーン上でリモート出演していただきましたが、会場と「さかなクン」様と直接やりとりができるような形での設えをし、大変盛況となりました。



地域社会への影響

多くの参加者にSDGsの必要性を感じていただいたことに加え、親子参加型だったことから保護者の方からも大人もSDGsのことを考えていかなければいけないという声をいただきました。当日は、市役所の方や地域で活動されているNPO法人水辺に遊ぶ会の方々にも参加いただき、中津市内の多くの方を巻き込むことができました。また、当日の様子がテレビ放映されたことにより、さらに多くの方にSDGsに取り組んでいかなければならないことを感じていただくことができました。

公益社団法人　中津青年会議所
住所　大分県中津市殿町１３８３番地１　中津商工会議所３F
理事長名　上野利浩　電話 0979-23-2640　E-mail　info@nakatsujc.com

最優秀組織間協働プロジェクト賞

#deleteC大作戦 byJCI京丹後

一般社団法人　京丹後青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

当青年会議所にとって共感を生む運動とは何が大事かを学んだ事業でした。必ずやご評価いただけると信じております。

事業背景

日本人が生涯で「がん」に罹患する確率は、2人に1人［男性65.0%、女性50.2%（国立がん研究センターがん対策情報センター2018年統計より）］と言われています。また、「がん」の死亡率は昭和56年以降、死因の第1位となっており、年々増加傾向にあります。それほど身近な病気であるにも関わらず、日本国内では、がんの治療研究に充てられる費用がまだまだ少ないのが現状です。がんの治療は世界中の研究の積み重ねにより着実に進化しており、研究が進むことが治療の選択の幅を増やすことにつながることは明確です。しかし、薬の実用化を目指す治療研究の数において、日本はアメリカと比較すると大幅に少ないのが現状です(2018年のがん関連薬剤の治験数USA:6842件/JPN:338件)。これまで「がん」という病気に対して関われなかった個人、企業、様々な立場の人々をつなぎ、誰もが参加できて、みんなでがんの治療研究を応援できる仕組みを構築する必要があります。

事業目的

がん治療が難しい理由は「自分のがんに効く薬を見つけるのが難しい」ということです。実は海外で使われている100種以上のがんの薬が、日本で認められておらず、一般的には使われていない状況にあります。存在するはずの選択肢を選ぶことができないという現実を市民に認識してもらい、今までは、がん研究に対してできることがなかったかもしれませんが、「#deleteC大作戦」によりできることが生まれ、みんなの力を合わせたら、5年かかることが3年で叶うかもしれないし、もしかしたら1年になるかもしれない、そんな希望を本事業を通じて拡大していきます。「みんなの力で、がんを治せる病気にする」というdeleteCの理念への共感を拡大することで、がんの治療研究を応援する人財を増やします。そして、「がんを治せる病気にする日」を1日でも早く手繰り寄せることに貢献します。

事業概要

本事業に協賛する企業・団体の商品や企業名、ロゴ等からCancer（がん）の頭文字となる「C」の部分を自由に消した写真に「#deleteC大作戦」と「#京丹後青年会議所」と「#参加企業名、あるいはブランド名」をつけて参加者がSNS(Twitter、Instagram）で投稿することで、がん治療研究の寄付につながるというアクションを拡大しました。なお、協賛企業からは1社10,000円の協賛金をいただき、25社に参加を呼び掛け、25社より参加表明していただきました。本来であれば、1投稿につき100円、1リアクション(リツイート、いいね、シェア、動画再生)につき10円が寄付額として算定されますが、この度、JCI京丹後は啓発パートナーとしてdeleteC大作戦に参画した為、各企業から集まった協賛金を投稿数に関係なく全額寄付させていただきました。また、京丹後市民と共に実行委員会を構成し、実行委員長は峰山中学校の女子生徒（1年生）が務めました。中学生が参加企業の「C」を消した広報ポスターを25社分手作りで作成し、参加企業に配布及び掲示していただき、参加者がそのポスターと一緒に写真を撮ってSNSにて投稿することで投稿数の増加に貢献しました。

地域社会への影響

京丹後市は年齢が100歳を超える高齢者の割合が全国平均の約3倍あり、健康長寿のまちとして売り出している地域ですが、がんの死亡率は28.6%と全国平均（男性26.6%/女性17.9%）を上回っている現状を認識している市民はほとんどおらず、本事業を通じて改めてがんという病気について市民が考えるきっかけになりました。また、この度は中学生を実行委員に巻き込み、共に活動することで、青少年にとっては実践を通じて命の学習をすることができました。当初、中学生は次世代を担う人財という認識を持っていましたが、実際に取り組んでみると我々にはない視点から課題を捉え、様々なアイデアを出し、形にしていく等、その活躍は共にまちをより良くしていく仲間として大変心強いものでした。本事業を通じて、多くの中高生がこのまちをより良くしていく一員としての当事者意識をもつことができたと考えます。

一般社団法人　京丹後青年会議所

住所　京都府京丹後市峰山町白銀14
理事長名　吉岡　高博　電話 0772-62-3153　E-mail　info@kyotangojc.com

最優秀組織間協働プロジェクト賞

アドベンチャースクール2022

～夢への第一歩！持続可能な防災に強いまちづくりのために～

公益社団法人　袋井青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

この度はAWARDS JAPAN2022の最優秀組織間協働プログラム部門にノミネートさせていただき、大変光栄に感じております。またJCI袋井の事業に共感いただき、重ねて御礼申し上げます。JCI袋井一丸となって創り上げた事業なので有終の美を飾りたいです。宜しくお願い致します。

事業背景

東海地方では南海トラフ大地震が発災されると予想され、行政、団体、個人では発災への備えが進められています。しかしながら新型コロナウイルスの流行により、継続的に行われてきた共働事業は軒並み中止に追い込まれ、被害を最小限にするために必要な「地域のつながり」が希薄化しています。市民を巻き込んだ大型イベントがいまだに自粛される中、青年会議所が地域のリーダーとして牽引していかなくてはなりません。地域の防災意識の向上、そして住みやすい地域づくりを育むために様々な団体や企業、子供から高齢者など多種多様な人たちを巻き込んだ地域に活力を与えるきっかけづくりが必要です。

事業目的

地域とのつながりの重要性を理解していただきます。また、地元企業として責務を理解し、自分事と捉え、率先して災害準備対策を行うとともに、その準備対策の必要性を普及啓発する担い手となることを目的とします。
コロナ渦で希薄になった地域と強固な関係を築いていただきます。また、地域全体のつながりを強化していただき、複合災害対策を行うことへの重要性を理解し、地域コミュニティとして災害準備対策の更なる普及啓発活動が行われることを目的とします。袋井市には様々な企業、魅力的な人がたくさんいることを感じてもらいます。また、防災に対しての意識向上を図ります。

事業概要

子供たちが楽しく参加できる地域主体のイベント不足による弊害の調査。地域防災に関する地域団体とのつながりを調査。コロナ渦での各企業・団体と地域とのつながりを調査。「アドベンチャースクール２０２２」を開催。子供たちには地域の企業と触れ合うことで、地域愛を醸成。合わせて防災要素を散りばめて、災害に対しての意識を高めました。青年会議所が主体となり行政、団体、企業との横のつながりをつくりました。災害時に活用できるネットワークづくり。災害の協定を結ぶ運びになりました。１０月の被災時に、事業時に作った協定を生かした被災対応ができました。

地域社会への影響

自社の活動を通して地域貢献できること、そういうことの繰り返しが地域の災害意識の向上につながることを理解していただきました。本業も地域貢献も同時に行うことができ、難しくないことを体感していただきました。社業だけでなく地域貢献についても一緒にできたおかげで社内の雰囲気もよくなったと伺っています。今後も青年会議所への継続的な支援も得ることができました。

公益社団法人　袋井青年会議所
住所　静岡県袋井市新屋２－１－２
理事長名　榛葉　美希　電話 0538-31-8233　E-mail　info@fukuroi-jc.jp

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀LOM
国際協力プログラム賞

最優秀LOM国際協力プログラム賞

FUN FUN Cooking

一般社団法人　大阪青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

シスターJCとの国際交流の機会をASPACや世界会議といった大会だけではなく、メンバー単位で交流できる機会を作りたく事業を構築しました。コロナ禍だからこそ生まれた事業であり、様々な食文化に触れることで多様な価値観を培い、海外のJCIメンバーとの絆も深まりました。ぜひ、多くのLOMの方に知っていただきたいと思っています。

事業背景

新型コロナウイルス感染症の拡大により、旅行や実地にて交流ができず、国境を越えた人と人とのつながりが希薄化しています。そのため、多様な価値観や文化に触れる機会も減少し、世界の諸問題への興味も薄くなってきています。
また、ASPACや世界会議で交流をしていたシスターJCとの交流もWEBになったため、関係性も薄くなってきており、今こそ、世界中に拡がるJAYCEEとのつながりを深化させ、世界とのつながりを再構築していく必要性があります。

事業目的

新たな形で交流をし、実地でも会えるようになったときによりつながりが深くなるようにします。そして、国境を越えた同志(JAYCEE)の多様な価値観や文化を受容する寛容な心をもち、多様な価値観から新たな価値を生み出していく気概をもってもらいます。世界中のJAYCEEメンバー100人と友情を深め、互いの国の課題解決に向け、相乗効果を生む関係性を再構築していくメンバーを創出します。

事業概要

3カ国オンラインでのお料理教室(FUN FUN Cooking)の開催5名1チームとして、大阪青年会議所メンバー5名×4チーム=20名。JCIウランバートルメンバー5名×4チーム=20名が参加。大阪青年会議所メンバーが、各国のJCIメンバーにそれぞれの国の料理を教わりながら、画面越しに互いが料理をつくる中で、各国の食文化やマナーの違いに触れてもらい、互いの活動や組織の在り方の違いについても話をしてもらい、各国の課題や価値観の違いを受け入れ、次回以降への関係性に繋げました。同様の内容を他3カ国とも開催し、合計120名の参加。後日、ASPAC開催時にLOMランチョンにて大阪青年会議所メンバーから、JCIウランバートル他、JCIプノンペン、JCI台北、JCIヴィクトリアに向け、日本食を通じて大阪や日本の文化や価値観に触れる中で、より友情を深め、互いのメンバー同士がそれぞれの活動に興味をもち、協働できる関係性を構築しました。

地域社会への影響

今回は、JCIメンバー同士での開催とさせていただき、メンバー同士が国際課題や多様な価値観に触れ、今後のJC活動、社業につなげていってもらいたいと考えております。
様々な国の価値観や課題に触れることで、メンバーからの発信、意識変革で地域社会への影響を与えると考えます。メンバーの意識を変えることで、互いの友情が深まり、それぞれの国に興味をもち、互いに協働意欲を高めれたことと今後の互いの地域活動へ新たな価値観や視点で物事を捉え、さらに地域社会への影響を拡げていけると考えます。

一般社団法人　大阪青年会議所
住所　大阪市港区弁天1－2－30オーク4番街401号室
理事長名　梶本秀則　電話 06-6575-5161　E-mail　ojc-office@osaka-jc.or.jp

最優秀LOM国際協力プログラム賞

みやざきインターナショナルフェスタ ～ワールドテラス～

一般社団法人　宮崎青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

市民のみなさまに国際交流の機会を提供することで多文化共生が進み、日本人と外国人のコミュニケーションを促進させ、在住外国人が住みやすいまち、そして在住外国人の方々との共助しやすい地域コミュニティを形成することを目的とし国際交流イベントを構築いたしました。結果、約4,000名の参加者を動員し事業の目的を達成することができました。また、講師や協力者、出展者、出演者が約200名にのぼり非常に多くのパートナーを巻き込んで事業を実施することができ、地元メディアからも取材を受け事業を広く発信することにも成功いたしました。

事業背景

グローバル化が進展する中で、言語や文化が異なる在住外国人が増加傾向にあります。新型コロナウイルスの影響により、人的交流の機会が減少する中、在住外国人をはじめとするマイノリティが孤立せず、ともに支えあう住み暮らしやすい社会を形成するためには相互理解を深め、多様性を尊重することが必要です。

事業目的

市民に国際交流の機会を提供することで、多文化共生が進み、日本人と外国人のコミュニケーションを促進し、共助しやすい地域コミュニティを形成することを目的とします。

事業概要

市民参加型国際交流事業「みやざきインターナショナルフェスタ～ワールドテラス～」を実施しました。
※ 宮崎や日本、世界の食や文化、習慣など様々な魅力を一つの広場で体感できるという意味と”世界を照らす”という意味から「ワールドテラス」を用いました。
ブースの出展:全19ブース
外国ブース(7ブース)、行政ブース(4ブース)、宮崎の魅力発信ブース(3ブース)
選挙啓発ブース(1ブース)、企業PRブース

地域社会への影響

イベントに出演していただいた中国の二胡演奏団体の二胡クラブや、ブース出展をしていただきました英会話教室に体験入会申し込みが実際にあり、国際交流の発展と需要が拡大いたしました。また、参加者に台湾餃子や世界各国の料理を食していただき出展いただきました。在住外国人の方が経営する店舗の周知を行うことができ宮崎で需要が少なかった外国の食に関しての経済効果が上がりました。

一般社団法人　宮崎青年会議所
住所　宮崎県宮崎市松山1丁目12番7号　大春ビル3F
理事長名　植松　剛史　電話 0985-28-2522　E-mail　info@miyazaki-jc.or.jp

最優秀LOM国際協力プログラム賞

世界をもっと知ろう
～new discovery～

公益社団法人　吹田青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

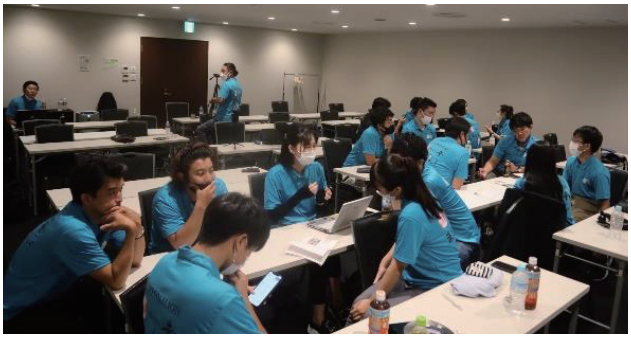
この度のノミネートは、本当に心から嬉しく思っております。この事業は実施して終わりでは無く、その後の参加してくれた学生達の後を追い続けると言ったとても長い期間実施された事業でありました。そのため何度か気持ちが続かなかったこともありましたが、委員会メンバーはじめとします多くのメンバーの支えが有ったからこそやり遂げれたと心から感じています。ですので、この度ノミネートで選ばれたこと、そして褒賞がもらえるかもと言った状況まで本事業が認められたことは、この事業を実施し、やり遂げたこと、本当に良かったと心から思っております。

事業背景

2020年度の学習指導要領の変更は、今までの正解ばかりを求めてきた教育では、正解のない社会に対応ができず、学校教育から社会に出た際に活かすことのできる能力を伸ばすことが必要であるということから、予測できない社会で様々な課題を発見し、多様な人々と協働して課題を解決する能力を育む必要があると判断され変更されました。新たな時代に必要となる資質・能力として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つがあり、2024年度大学入学共通テストから記述式問題、思考力・判断力・表現力を測る問題を導入することを目標としています。従来の「読む」「聞く」に加え「書く」「話す」値からの測定を目的とし、多面的・総合的評価入試では、高校3年間の学習活動や特別活動の履歴や資格なども評価対象にするとされています。

事業目的

国際的な問題に対する解決策を立案できる資質を向上する。



事業概要

本事業において、国際的な目標であるSDGsとこれから求められる「生きる力」を学び、事前学習で各講師の方々から国際問題の話をしていただきました。学生各位が自らSDGsのゴールを決め、その解決策を立案しました。

地域社会への影響

本事業に参加した学生は自地域である吹田市だけでなく大阪府下から参加者を集めさせていただきました。そして、事業実施後の啓発啓蒙活動を通じて、各関係機関(省庁)や各参加者の所属する学校で発表を行うことで、大阪府下全域から来ている学生達にも本事業の内容を伝えることができました。発表の内容を聞いた人たちが、各地域で広げてもらうことができれば、大きな影響力を残せたことになると考えます。我々は発表までの実施になるため、できるだけ数多くの啓発啓蒙活動を行うことで、運動として広がるための土壌は作れたと考えます。

公益社団法人　吹田青年会議所

住所　大阪府吹田市広芝町10-3サニーストンホテル内
理事長名　杉本慎一郎　電話 06-6386-1475　E-mail　suitajc@suitajc.jp

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀LOM
起業家精神プログラム賞

最優秀LOM起業家精神プログラム賞

YOKOHAMA after College 2022

Startup!! Fundamental Training Practical Course

一般社団法人　横浜青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

脱炭素化社会を実現する具体策として、大量生産、大量消費、大量廃棄の直線的にモノが流れる一線経済から資源を半永久的に活用し続ける循環型経済へ転換させる必要があります。世界に冠たる循環経済先進都市の実現に向け、その担い手となる若手社会起業家を育成する事業を実施致しました。

事業背景

昨今の自然環境変動の進展を受け、私たちの在する横浜市ではZero Carbon YOKOHAMAを掲げ2050年までの脱炭素化を目指しています。大量生産、大量消費、大量廃棄の直線的にモノが流れる一線建材から資源を半永久的に活用し続ける循環型経済へ転換させなければなりません。循環経済先進都市の実現に向け、その担い手を一人でも多く育成する必要があり、そのプラットフォームや教育、実践の機会を広く提供し継続的な自立的な社会企業家の創出が可能となる本事業の実施に至りました。

事業目的

本事業は社会企業家を創出し、社会問題の解決『ソーシャルインパクト』を生み出すことを最大の目的としております。しかしながら、社会問題への観点、自分自身への気づき、実行を移すにあたってのビジネスモデル・ファイナンス等超えるべき課題が山積しています。そういった課題解決のスキルを身に着けることも必要ですが、熱量をもって社会起業家として『ソーシャルインパクト』を生み出せるようになるには多くの理解者や共感者も必要となります。本事業はソフト・ハードの面においてあらゆる課題を乗り越えられるよう寄り添って社会起業家を創出していくカリキュラムとなっております。

事業概要

YOKOHAMA after College 2022は受講者にソーシャルビジネスプランを完成させるスキル、熱意を身につける社会起業家の為のカリキュラムとなります。現役経営者や金融機関の方々が講師を務め基本的なビジネススキルから社会問題への観点・ファイナンスなど幅広く知識を得られる場を提供するものとなっております。

地域社会への影響

本事業は社会起業家の創出を目的しており、現在の横浜が抱える問題に対し、個別の解決を図るのでは無く解決を図れる人財を育成することが可能となっております。
また事業そのものに社会起業家育成の効果がありますが、その社会起業家自身が影響の範囲を広げることで多くの方に問題意識と解決の姿勢を伝えております。このことにより地域の様々な方々に良い影響をもたらし社会問題解決の機運が高まり、更なる社会起業家を創出し社会問題が解決していくプラットフォームとなります。

一般社団法人　横浜青年会議所

住所　神奈川県横浜市中区山下町２番地　産業貿易センタービル3F
理事長名　崔　成基　電話 045-671-7485　E-mail　yjc@yokohama-jc.or.jp

最優秀LOM起業家精神プログラム賞

アントレプレナー育成事業

「アントレプレナーシップで環境課題を解決しよう」

公益社団法人　長野青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

地域課題を解決するため、地域にアントレプレナーを生み出す運動を推進いたしました。本事業がAWARDS JAPAN2022にノミネートされたことはとても光栄です。事業に参画してくださった外部協力者や地域の学生のためにも良い報告ができることを期待しています。

事業背景

先の見通せない不確実な時代の中、地域の持続可能性を高めるにはチャレンジ精神を持って課題解決に臨むアントレプレナーの存在が欠かせません。しかし、日本はアントレプレナーシップに関する指標がG7中6位であり、特に実践教育の機会やチャレンジする場の提供が不足しておりました。このような機会提供の不足はわがまち長野においても例外ではなく、このままでは地域の課題解決に取り組む人財が減少し、地域の持続可能性を保つことが困難となることが予想されました。そこで、地域社会の推進力である長野青年会議所が旗振り役となり、アントレプレナーシップを実践的に学び、解決が困難な課題にチャレンジする場を提供することで、アントレプレナーを生み出していく必要があると考えました。

事業目的

①参加した大学生に向け、アントレプレナーシップの習得及び課題解決に挑戦する意欲の向上を目指しました。
②参加した事業者に向け、アントレプレナーシップの習得及び課題解決に向けた取り組みのさらなる推進を目指しました。
③長野青年会議所メンバーに向け、アントレプレナーシップの内容を理解し、培う方法を学ぶとともに、今後、アントレプレナーを生み出す運動を継続していく機運を高めることを目指しました。
以上を実現するため、本事業に参加した大学生、事業者、メンバーがそれぞれ主体的になり、セミナー、グループワークを通じて地域の課題解決に向けたアイデアの創出、及び取り組みに向けたアイデアのブラッシュアップを図りました。

事業概要

地域の学生及び事業者に対して、環境課題にチャレンジする実践的な機会を提供することを通じて、アントレプレナーを生み出していく事業を実施しました。本事業では、地球温暖化対策というテーマの下、事業参加者である事業者と大学生の協働による当該環境課題の解決に向けた取り組みを考案すると共に、それを実行に移してもらい、最終的に9月公開例会における当該取り組みの発信につなげました。参加者には、既に環境課題解決に向けた取り組みを推進している事業者によるファシリテートの下で、他者との協働の中でアイデア出しを行い、さらにそれを深め実際の取り組みにつなげるという体験を通じて、アントレプレナーシップを習得してもらいました。

地域社会への影響

本事業の実施により、地域の大学生と事業者及び長野青年会議所メンバーが一体となり、様々な取り組みを行うようになりました。
①長野地域へ観光客を誘致するため、自然エネルギーを活用したサウナ事業の検討が行われました。
②本事業に参加した大学生が主体となり、地域の起業家コンテスト応募に向けた動きが活発化しました。
③地域事業者の環境に対するチャレンジ精神が向上し、それぞれの事業者により環境課題解決の取り組みが一層進むようになりました。（長野県SDGs推進企業への登録、事業内での環境整備活動など）
④再生エネルギーや再生資源への注目度が上がり、長野県環境部や産業労働部の職員を巻き込みながら事業を行ったため、今後の政策に向けたプラスの効果につながりました。

公益社団法人　長野青年会議所

住所　長野県長野市大字鶴賀７２６番地長野商工会議所３階
理事長名　中川　大三　電話 026-228-3260　E-mail　mail@nagano-jc.jp

最優秀LOM起業家精神プログラム賞

Make Money Presentation in 豊川JC ～人生をつかみとれ～

一般社団法人　豊川青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

ノミネートも光栄なことではありますが、日々進化、成長する学生達とのつながりができたことが1番の財産であると認識しておりますし、非常に誇らしく思っております。
受賞をすることがあれば、是非リアルに学生起業家が誕生し、新たに社会に貢献するべく日々奮闘している学生達の声も全国の青年会議所メンバーにもお伝えできたらと思っております。

事業背景

青少年時代に人生の糧になるような体験をし、その時に得たことは、大人になってからも忘れることはなく、その際に起こった出来事や関わった人たちとの会話が、後の自分の人生に関わってくることがあります。そして、その機会は多ければ多いほど人生を豊かにし、各々が人生の岐路に立ち、選択を迫られる際などに役立つ財産となります。そのため、青少年の方が将来に向けて良質な経験を提供する機会が必要です。

事業目的

青少年の方々が将来の糧になるような体験をし、人生に影響を与える良質な経験を積んでいただくことを目的とします。

事業概要

参加者を5チーム募り、7月より「事業の立案」「事業計画」を作成し、10月に「プレゼン大会」を実施。ライブコマースでの配信を実施。そちらで閲覧者からの投げ銭、審査員からの賞金を合計し、5万円を超えた場合、賞金としてそちらを獲得できるようにいたしました。

地域社会への影響

上記の検証結果にも記載しましたが、参加していただいた学校で経営者と連携を実施することになった、ということが一番大きな影響であると考えています。若い世代が現役の経営者に触れ合う機会が増えるということは、起業マインドを養う意味で大きな出来事になると思います。

一般社団法人　豊川青年会議所
住所　愛知県豊川市豊川町辺通４－４　豊川商工会議所内
理事長名　滝下豊　電話 0533-86-9223　E-mail　jcroom@toyokawa-jc.jp

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀
JCI RISEプロジェクト賞

最優秀

JCI RISEプロジェクト賞

2023.01.21

2023年度京都会議
Remember Your Dream
「AWARDS JAPAN 2022」

壇上にて発表

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀
外部資金活用プロジェクト賞

最優秀外部資金活用プロジェクト賞

第41回横浜開港祭

一般社団法人　横浜青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

3年ぶりに入場制限のない実地開催となった横浜開港祭ではゼロカーボン・ゼロウェイストのお祭りにむけた一歩を踏み出し、世界から
注目されるお祭りとなるべく構築致しました。また、軍事目的で開発されたものであろうとも使い方次第では世界平和を象徴することができることを表現するために横浜開港祭では初となるドローンショーを開催致しました。

事業背景

例年70万人近い人々が来場される横浜開港祭は、2022年に41回目の開催を迎えました。横浜開港祭は一般社団法人横浜青年会議所において事業規模、予算ともに最大の事業であります。これまで先輩諸兄が規制緩和に挑戦し、横浜にインパクトを残してきた事業だからこそ、多くの方々に共感をいただき、今もなお事業が続いております。今後も多くのパートナーや市民の皆様とともに、横浜開港祭をつくりあげていく必要があります。

事業目的

2050年のゼロカーボンシティの実現を目指す横浜市に先駆けて、環境に考慮した開港祭を開催し企業や市民の皆様とともに、環境、社会を思いやる新たな横浜の価値を創出することを目的とします。また、諸外国の世界情勢や新型コロナウイルスとの終わりの見えない戦いの中で、希望を届けたいという思いを込めております。
・環境を考慮した環境課題解決市民祭
・子供達が最新テクノロジーに触れることにより興味と夢を持ってもらいます。
・ドローンを使うことで世界平和と新型コロナウイルスの影響で苦しんでいる方々、前線で頑張っている医療従事者へのエールと感謝のメッセージを伝えます。
・横浜の観光と経済の活性化
・行政、企業、市民と連携して事業を構築することの重要性の認識。

事業概要

・1 環境を考慮した環境課題解決市民祭。
Jクレジットを導入することで、Thanks to the Port「開港を祝い、港に感謝しよう」のテーマのもと海洋保全活動などの押しを致します。飲食の食品トレーをリユース品にすることでトレーのゴミを削減致します。
リーフレットなどの紙媒体を一切使用せずキャンペーン活動を行うことで環境問題に取り組みます。
・2 子供達が最新テクノロジーに触れることにより興味と夢を持ってもらいました。最新テクノロジーを駆使することで夜空に文字や映像を鮮明に映し出すことが可能となり、子供達に夢と新たな可能性を伝えることを目的としています。
・3　ドローンを使うことで世界平和と新型コロナウイルスの影響で苦しんでいる方々、前線で頑張っている医療従事者へのエールと感謝のメッセージを伝えます。
軍事用に開発されたドローンを今回の祭事に使うことにより、人々に感動を与え、世界平和を伝えることと、新型コロナウイルスの影響で暗くなっている世の中に元気と感謝を伝えます。

地域社会への影響

2050年のゼロカーボンシティの実現を目指す横浜市に先駆けて、環境に考慮した開港祭を開催し企業や市民の皆様とともに、環境、社会を思いやる新たな横浜の価値を創出することができました。また、諸外国の世界情勢や新型コロナウイルスとの終わりの見えない戦いの中で、軍事用に開発されたドローンを使うことで、希望と世界平和を願う想いを伝えることができました。

一般社団法人　横浜青年会議所

住所　神奈川県横浜市中区山下町2番地　産業貿易センタービル3F
理事長名　崔　成基　電話 045-671-7485　E-mail　yjc@yokohama-jc.or.jp

最優秀外部資金活用プロジェクト賞

第3回こもろふれ愛フェスティバル

一般社団法人　小諸青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

AWARDS　JAPAN2022に私たち一般社団法人小諸青年会議所の第3回こもろふれ愛フェスティバルをノミネートしていただき、本当に嬉しく思っております。私たちの運動がより多くの方々に広がっていけば幸いです。よろしくお願いします。

事業背景

近年、コロナウイルスが蔓延している中でもワクチン接種が進み、少しずつ安心して活動ができるようになってきました。ですが、子供たちが学校以外の場で学び、挑戦できる場はいまだに少ないのが現状です。市や地区のイベントの中止が相次ぎ、本来ならばイベントを通して家族の絆を深めて大人から子供までが一緒になって楽しみ、その中でコミュニケーション能力の成長などを学べたはずです。経験できたはずのこともできなくなってしまっているのが現状ではないでしょうか。JCI小諸だからこそできることを通じて子供たちに家族や地域の大人たちとの交流の場をつくることが必要です。また、より多くのことへ挑戦できる場を作り、小諸市やその近隣の企業に協力していただき、多種多様な職業があることを知って体験し、子供たちの将来の選択肢の幅を少しでも広げられる場を提供しなければなりません。

事業目的

今この時しか経験できない一生に一度の大切な思い出や絆を親や友達とつくってもらうことができること。地域の温かさ、郷土の良さをより知ってもらうこと。子供達自身の視野を広げ夢をもつキッカケづくりができること。小諸の魅力をより発信することで、小諸市が活性化され、小諸市のリピーターが増えること。小諸市の地元を想う人が増え、人口の増加につながること。沢山の企業に参加していただくことで、企業PRや雇用促進にもつながること。また子供達の将来やりたいこと、夢などの参考になることもでき、若者のUIJターン職業の促進すること。以上のことを目的とします。

事業概要

来場していただいた方々をチェキとカメラで撮影し、フォトモザイクアートにして公共施設に掲示。デザインは昨年の小・中学生アンケートの結果をもとに小諸の魅力や好きな場所の問いに最も多かった懐古園(小諸城三乃門)のデザインを選定。夢・愛・絆をテーマに3つのブースを出展
(1)夢ブース　　自分たちが生まれ育った場所で多種多様な職業の発見や子供達の将来の選択のきっかけとして運送、建設、飲食、報道、美容、製造業、警察、自衛隊、消防などの市内20企業と共同して、職業体験を行った。
(2)絆ブース　　市内各小・中学校の児童・生徒さんの吹奏、合唱、ダンスなどのステージ発表を実施。普段同じ市内に住んでいる方でもあまり見て、聞ける機会は少ないのが現状です。実際に足を運んでもらい他校の児童・生徒さんの発表を見て、聞いて楽しんでもらいました。
(3)愛ブース　　郷土愛、地域にある様々な飲食店に地域の食を通して郷土の魅力を再確認していただくきっかけづくりをしました。

南城公園に子どもの歓声　「こもろふれ愛フェス」「小諸の第3の祭りに」

地域社会への影響

来場者数4,300人の方に来場いただき多くの方に小諸の魅力を知っていただくことができました。また、多くの企業、団体の方に協力をしていただく中でこのような事業を自分たちもやってみたいというお声をいただくことができました。小学校関係者を中心に多くの方々に青年会議所は素晴らしい団体だと認知していただくことができました。小諸にも面白い場があると再確認していただけました。

一般社団法人　小諸青年会議所

住所　長野県小諸市相生町3-3-12小諸商工会所B1
理事長名　宮崎　翔平　電話 0267-23-7854　E-mail　komorojc@gmail.com

最優秀外部資金活用プロジェクト賞

第51回新庄雪まつり

公益社団法人　新庄青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

この度、「第51回新庄雪まつり」をAWARDS JAPAN2022にノミネートしていただきまして、大変うれしく思います。この新庄雪まつりは、地域の子供たちに冬の楽しみを与えたいとの創始の想いから1971年に新庄青年会議所が興し、コロナ禍も含めて、一度も途絶えることなくおこなわれており、地域の冬の風物詩となっています。また、新体制が始まってすぐの事業でもありますが、新庄青年会議所会員一人ひとりの力と地域の行政をはじめとする多くの協賛団体様、協力団体様、そしてボランティアの皆様に支えられ、地域に愛される冬のイベントとして親しまれてまいりました。この「AWARDS JAPAN2022」の場で全国の方々に新庄の魅力が沢山詰まった新庄雪まつりを知っていただく絶好の機会を頂戴し、大変うれしく思っております。

事業背景

全国でも有数の豪雪地域であるこの新庄もがみ地域の雪を地域資源のひとつとして考え、人々が雪を親しむという「親雪」の考え方により、50年前から新庄青年会議所では、新庄もがみ地域の子供たちが冬でも楽しめる事業として新庄雪まつりを開催してきました。昨年は、新型コロナウイルス流行の影響もある中、工夫を凝らし、対策を講じて、第50回新庄雪まつりを開催しました。今年もウィズコロナ・アフターコロナの状況の中、対策を講じて、雪国新庄もがみ地域ならではの自然、文化、人の魅力を発信し、地域のブランド価値を高める機会が必要です。

事業目的

新庄雪まつりを通して、雪を用いた遊びや、冬だからこそ味わえる様々な魅力に触れていただくことにより、雪国だからこそ得られる恵みや自然・文化・人の魅力を発信するとともに、地域住民が交流し新庄もがみ地域の素晴らしい価値を認識し、発信することを目的とします。
協賛団体様、協力団体様、地域ボランティアの皆様とともに新庄青年会議所が雪まつりを協働して行うことにより、新庄もがみ地域における青年会議所運動の拡大につなげるとともに、新庄青年会議所会員全員で伝統ある統一事業を行うことにより、2022年度の新庄青年会議所の組織力の向上と会員個々の成長につなげることを目的とします。

事業概要

1971年に新庄青年会議所が興した新庄雪まつりは、地域の行政をはじめとする多くの協賛団体様、協力団体様、そしてボランティアの皆様に支えられ、地域に愛される冬のイベントとして親しまれてまいりました。本年は、第51回のさらなる一歩を踏み出す大会となり、テーマを【希望】【きらめく雪の光　冬を彩る SNOW FESTIVAL】をスローガンに新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じ、関係各所のガイドラインを遵守し開催されました。高さ7m幅14.5mmの宝船をモチーフにしたメイン雪像と巨大すべり台は陸上自衛隊第20普通科連隊の方々に作成していただき、当日は2日間に渡り多くのイベントをおこない、新庄もがみの食が味わえる、ゆき雪マルシェはテイクアウトにて楽しんでいただき、来場されたすべての方々に新庄もがみの魅力を発信する機会となりました。

地域社会への影響

新庄雪まつりの開催により、新庄もがみ地域の冬の魅力が地域の内外の多くの人々に伝播し、雪国である新庄もがみの地域のブランドの価値が高まることにより、地域住民は、この地域を大切に思う心をより強くし、また、この地域以外の人々は、新庄雪まつりのみだけではなく、新庄もがみ地域の様々な魅力に惹きつけられ、地域内外の人々の新庄もがみを想う心から発せられる行動が持続可能な新庄もがみ地域の実現へつながることとなります。

公益社団法人　新庄青年会議所

住所　山形県新庄市住吉町3-8
理事長名　橋本一馬　電話 0233-22-6855　E-mail　shinjojc@ic-net.or.jp

最優秀外部資金活用プロジェクト賞

大船渡青年会議所電力

一般社団法人　大船渡青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

大船渡という小さなLOMからでも様々な発信をし地域に貢献できるということを示せて、今回の事業を行いとても良かったと思います。
今後も時代に即した事業などを行なっていければと思います。

事業背景

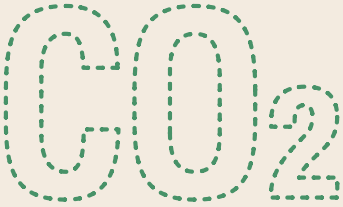
より良い社会づくりを目指し、青少年育成事業やまちづくり事業を実施したいです。しかし、会員が少ないので予算があまりありません。会費収入を財源として事業を行ってきました。そのため、LOMの会員数に左右されない新たな活動資金の確保が求められています。

事業目的

JCの活動を応援してくれるOB先輩や一般市民の応援の仕方の新たな選択肢を設けます。

事業概要

地域で使われている電気料金を地域の中で循環させる新たな仕組み。電気料金を下げるとともに、域内に電気料金の一部を還流させることで、継続的な支援構造をつくる。電気の契約を切り替えるだけで、手軽に、継続的に、経済的にJCI大船渡の活動に協賛いただきました。
ホスト、地域住民、地域事業者などから成る協同組合として運営。「地域の自律的な活動を支えるエネルギー」をコンセプトとして、地域のために活動しているJCI大船渡が電力の販売を通じて、収益の一部が地域活動のために還元されるプラットフォームサービスを利用します。



地域社会への影響

青少年育成事業、まちづくり事業の事業費の増加により、より効果的な事業を実施できています。

一般社団法人　大船渡青年会議所

住所　岩手県大船渡市盛町字中道下2－25
理事長名　千葉　豪　電話 0192-27-1285　E-mail　info@ofunatojc.com

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

最優秀
中期ビジョン策定プロジェクト賞

最優秀中期ビジョン策定プロジェクト賞

中長期ビジョン策定事業

一般社団法人　徳島青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

徳島青年会議所の中長期計画がノミネートされ嬉しく思います。5年後の徳島の明るい未来を牽引する組織であれるよう今後も努力していきます。ノミネートいただきましてありがとうございます。中長期計画は不連続の連続である青年会議所活動、運動に対し一本筋を通す重要な指標となります。当LOMの行ったことが全国の同志に共有されることだけでも大変光栄なことと存じます。

事業背景

5年前の創立60周年を迎えた年に策定された中長期計画は、それから5年間にわたって徳島青年会議所の活動の指針となってきました。前回の策定時に10年計画として策定され、中長期計画の折り返し時期となる本年に振り返り、過去5年間の検証を行うとともに、当時とは大きく変化した社会情勢を前に、今一度中長期計画の見直しや現状の課題の把握、新たな解決方法を模索しなければなりません。また、単年度制を採用している青年会議所において、徳島青年会議所が持続可能な組織であり続け、明るい豊かな社会を実現するためにも現状に則した中長期計画の策定が必要となります。

事業目的

単年度制の青年会議所はより多くの会員に成長の機会を提供するため、各年度ごとに理事長をはじめとする組織の編成が行われています。そして、理事長が定めた基本理念、基本方針に基づいた事業計画を立て、地域をより良くするために活動しています。その中で、徳島青年会議所として各年代の理事長が掲げる基本方針や所信の方向性を定めることで一貫性のある運動を展開し、一体感を醸成します。明るい豊かな社会を実現するために全てのメンバーに対して組織としての目指すべき一貫した指標を明確にする中長期ビジョンを策定します。

事業概要

組織の将来的な「ありたい姿」を目標にし、そこへ至る道程の中に、果たすべき役割、行うべき活動を位置付け、目標に向かう中間的、段階的な目標を設定。
組織全体で活動を積み上げて中長期的に「ありたい姿」の実現を目指しました。60周年に策定された中長期計画から5年目を迎え、当初無かったSDGsやDXの推進等、国連や国の施策、国際社会の方向性、目標を考慮し更新しました。

地域社会への影響

徳島県、徳島市、徳島市内3大学へ使用している中長期計画について聞き取りをおこなったことで、青年会議所への期待や要望について深く話し合うことができました。この関係各所との意見のすり合わせを行ったこともきっかけの一つとなり、本年の徳島青年会議所主管の事業への理解や賛同、協賛が得られ、地域社会への情報発信への一助となりました。

一般社団法人　徳島青年会議所

住所　徳島県徳島市南末広町５番８－８号
理事長名　佐藤　雅俊　電話 0886-23-1478　E-mail　info@tokushima-jc.or.jp

最優秀中期ビジョン策定プロジェクト賞

みんなで地域の未来ビジョンを作ろう！「NANAO GIFT 2040」

一般社団法人　七尾青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

「2022年に生まれた赤ちゃんたちが大人になるのは2040年。その子たちへ、我々七尾の責任世代からのギフトを未来ビジョンという形で届けよう！」そんな想いから七尾における未来ビジョンの策定プロジェクト「NANAO GIFT 2040」をスタートしました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まり、世の中の仕組みや価値観が劇的に変化してきたこの2年間。実は、それに抗うように未来を見据えた様々なプロジェクトがこの七尾で新しく生まれていました。市内のテイクアウト可能な飲食店の検索サイトからスタートした「#がんばろう七尾プロジェクト」や開催中止となった青柏祭を疑似体験するオンラインイベント「おうちで祭りしよう！」、クラウドファンディングを活用した七尾市内の飲食店・観光施設の応援企画「NANAO未来チケット」の開催、“次の100年”につながる七尾の100のプロジェクトを集めた「nanao 100project」の発足、地域の課題解決のためのリビングラボ「YATAGOUビレッジセカンド大学」の開校、そして産官学金9機関によるSDGsコンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」の発足など。コロナ禍における制約、制限の多い中にも関わらず、本当に多くの挑戦が七尾には生まれました。しかし、これら多くの挑戦がバラバラに動いていてはもったいない！せっかくの七尾の未来に向けた活発なアクションたちを、ベクトルを同じ方向にして大きな力に変えたい！そのためには、我々の道しるべとなる未来ビジョンが必要である！そう考えた我々は、地域のあらゆる市民を巻き込み、市民が主役となってつくり上げた地域の未来ビジョンを示すことができたのです。また完成したビジョンのみならず、市民と共に、学び、考え、策定したこの七尾の未来ビジョンの構想、策定プロセスの経験は、課題解決型のバックキャスティング手法のみならず、ドリブンとなるべきワクワクという感情の大切さを、私たちに気づかせてくれました。先進事例も手法もない中で、小規模LOMである我々が地域の黒子として如何に多くの市民を巻き込み、市民共通のコモンズとなる未来ビジョンをつくればよいのか、多くのメンバーが頭を抱え悩み涙を流した本事業は、間違いなく我々を大きく成長させてくれた大切な資産となりました。地域の多くの市民が本当の仲間となり応援してくれる瞬間とその喜びを知った我々は、どんなこともやり遂げることができる！そのような自信と勇気を芽生えさせてくれた稀有な事業であることを、此処に宣言させていただきます。

事業背景

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まり、世の中の仕組みや価値観が劇的に変化してきたこの2年間で、それに抗うように未来を見据えた様々なプロジェクトが七尾では誕生してきた。“次の100年”につながる七尾の100のプロジェクトを集めた「nanao 100 project」の発足、地域の課題解決のためのリビングラボ「YATAGOUビレッジセカンド大学」の開校、そして産官学金9機関によるSDGsコンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」の発足など、コロナ禍における制約、制限の多い中にも関わらずである。しかし、これら多くの挑戦がバラバラに動いていては効果が限定的となる可能性がある事から、七尾の未来に向けた活発なこれらアクションのベクトルを同じ方向にし、大きな力に変えるため、我々の道しるべとなる未来ビジョンが必要不可欠であったのである。

事業目的

この地域を想い、多くの市民が行動を起こし始めた今、同じ方向と目標に向かってアクションを起こせば、より効果的に素敵な七尾をつくることができるのではないかと考え、地域ビジョンがどうまちを変化させるのか、地域ビジョンを市民、行政がどう共有していくことができるか、我々市民が取り組める地方創生の取り組みとはどんなものがあるのか、ひいてはその取り組みと地域ビジョンが持続的な未来都市にどう結びつくのかを地域全体で考え、そしてあらゆる主体とともに地域の未来ビジョンをつくっていくことが事業の目的である。さらにもう一つの目的として、地域の市民が主役となりビジョンをつくり上げることに本事業は重点を置いてきた。それは一部の組織や市民だけでつくるビジョンでは地域の共有物にはなりえず、自分事として地域に参画する市民を減らすことにつながると考え、参加への心理的ハードルを徹底して押し下げ、関わりしろを多くつくることで本目的の達成を目指した。

事業概要

本事業では地域ビジョンの必要性についてフォーラムを開催し、地域全体で地域ビジョンの必要性を確認し、そのビジョンがバックキャスティングによる課題解決型構築だけではなくワクワクとした市民一人ひとりのポジティブな感情を出発点にしなければ持続可能なものとならないことを確認したうえで、ビジョン策定フェーズをスタートした。ビジョン策定では未来の地域がどのように変化しているかを学んだうえで、参加者全員がワクワクアクションをアウトプットし、全てのアクションが実行できた先に実現できる未来をビジョンとして策定した。さらに策定過程に関与することができなかった地域の市民を巻き込むため、策定ビジョンのタイトル選定を七尾市民一人ひとりが決めることができる市民一斉総選挙を実施し、あるゆる主体が関与できる事業を実施した。そして策定されたビジョンと策定過程を周知するためビジョンブックを作成し、地域全体に徹底周知を行った。

地域社会への影響

七尾市ではこの地域を想い、多くの市民が行動を起こし始めており、持続可能な地域に向けての活発な活動が展開されている。しかしながらこれまで同じ方向と目標に向かってアクションを起こしていくための指針となるビジョンがなかったことから、単独の事業展開となってしまい効果が限定的であった。そのため本事業でつくり上げられた地域の未来ビジョンはそれら地域での活動の指針となり、互いの強みを持ち寄った、より効果的で共創に重点を置いた取り組みが実施できる環境が整備することができた。さらに本事業では地域の市民を主役とすることに注力してきたことから、地域の課題や将来を自分事として意識する市民が増加傾向であり、今後ますます行動を起こす市民プレイヤーが誕生すると考えられる。なお本事業でつくられたビジョンを、今後行政が事業計画の柱とすることも決まっており、地域社会全体での施策への反映が期待されている。

一般社団法人　七尾青年会議所

住所　石川県七尾市三島町70-1産業福祉センター4階
理事長名　森山　明能　電話 0767-53-2822　E-mail　info@nanaojc.com

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

LOM褒賞
最優秀会員会議所賞

LOM褒賞
最優秀会員会議所賞

公益社団法人
金沢青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

JCI金沢は、2022年に70周年を迎え、新時代に向けてのチャレンジということで、様々に新たな取り組みを行いました。この取り組みが評価されれば、さらなる挑戦へ拍車がかかりますので、授賞を期待しています。

一般社団法人
静岡青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度、JCI静岡は、コロナ禍によって改めて注目された考え方や技術といった新しい時代におけるチャンスを活かすと同時に、新しい時代であっても変わることがない「人を想い まちを想う」というJCI静岡としての信念をもつという考えのもと「人を想い まちを想う 創ろう活力溢れるSHIZUOKA」をスローガンとして、会員が一丸となって運動活動に取り組みました。2022年度、まちの「活力」の源である、人財、つながり、交流人口関係人口の拡大の全てで、持続性、持続可能性を追求した運動を行うことができたと考えており、必ずや多くのLOMの方々のロールモデルになることができると考えています。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

個人褒賞
最優秀理事長賞

個人褒賞
最優秀理事長賞

2023.01.21
2023年度京都会議
Remember Your Dream
「AWARDS JAPAN 2022」

壇上にて発表

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

個人褒賞
最優秀会員賞

個人褒賞
最優秀会員賞

2023.01.21
2023年度京都会議
Remember Your Dream
「AWARDS JAPAN 2022」

壇上にて発表

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

純増部門
優秀拡大LOM賞
20名以下の部

純増部門 優秀拡大LOM賞
20名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
西条青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

今後10年、20年と続けられる組織として、2022年は対外事業に注力しつつ、固定費・事業費を大きく見直しました。そして、会員拡大を推進し人財の確保と成長の機会の創出を図りました。コロナ禍ではありましたが、多くの新入メンバーに感謝し、そしてLOMでは会員拡大室室長として、ブロックでも会員拡大研修委員会委員長として、愛媛県内で多大な功績を積まれました、岡本浩揮君に感謝しております。この達成を機に、1人では達成できない目標でも、チームで実践すれば必ず成功すると信じ、意識変革団体として、率先できるリーダーとして今後も活動してまいります。

一般社団法人
東伯青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度の頑張りに感謝です。新入会員の私はその背中を追いかけます。

一般社団法人
もとみや青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

AWARDS JAPAN2022にノミネートいただき、ありがとうございます。JCIもとみやは過去5年間で2回、事業部門でAWARDSを受賞させていただいておりましたが、今回は拡大部門でのノミネートということで、大変嬉しく思います。2022年度は特に会員拡大に力を入れてきました。ＡＷＡＲＤＳ受賞はＪＣ活動をする上で一つの目標でありますので、受賞できることを祈ってAWARDSJAPAN2022に臨みたいと思います。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

純増部門
優秀拡大LOM賞
30名以下の部

純増部門 優秀拡大LOM賞
30名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
児島青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

この度はノミネートしていただき、誠にありがとうございます。児島青年会議所は歴史と伝統のあるLOMであります。またメンバーの例会参加率は90%以上と非常に高い水準を維持しております。今後も地元を愛するメンバーとともに志を同じくする仲間を1人でも多く迎え入れ、よりよい児島の未来のために歩んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人
鹿島青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

会員数が減少の一途をたどっている中ではありますが、会員一丸となって拡大を行っている道半ばです。ノミネートされたことに誇りをもって今後とも会員拡大に邁進していきます。

一般社団法人
羽生青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

この度はAWARDS　JAPAN2022にノミネートしていただき誠にありがとうございます。2022年度「構築」を掲げメンバーと共に高い志のもと協力し合った結果がこの様な素晴らしい賞をいただけたと思っております。この勢いを止めることなく来年もまたノミネートされるように努めていきます。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

純増部門
優秀拡大LOM賞
50名以下の部

純増部門 優秀拡大LOM賞
50名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
おおさき青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

受賞できるよう精進致します。

一般社団法人
千歳青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2020年に賛助会員制度を見直し、2021年に北海道地区大会主管と会員拡大の柱で運動を展開し30名の拡大に成功、2022年にほとんどの会員が正会員として移行し、今回のノミネートに至りました。現在は過去に無いぐらいLOMの機運が上昇してます！LOMメンバー全員でAWARDS JAPAN2022に参加し、2023年も更なる会員拡大に繋げてまいります！

一般社団法人
山城青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度の跳躍を活かし、2023年度もさらに会員拡大し、超越します！！

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

純増部門
優秀拡大LOM賞
75名以下の部

純増部門 優秀拡大LOM賞
75名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
八代青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度、最優先課題として掲げた会員拡大は、40名でのスタートでしたが、結果から申しますと23名の拡大に成功しました。JC愛60会議を筆頭に全メンバーが担当者だという自覚と拡大目的を日本JCシニアクラブの上田博和先輩を講師にお招きした3月例会にて再認識できたことで、毎日のように声掛けを行いメンバーや諸先輩方からの紹介者が増加致しました。また、後継者を預けていただいた諸先輩方のご理解、ご協力の賜物だと大変感謝申し上げます。そして、本年入会の23名には、これからJCの使命「より良い変化をもたらす力を青年に与えるために発展・成長の機会を提供すること」を理解してもらい、さらにJCだけではなく地域や家庭、会社により良い変化をもたらす魅力溢れるリーダーへ成長できるよう次代につなげて参ります。

一般社団法人
上田青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度、20名拡大に成功しました。ノミネートいただきありがとうございます。今後の入会制度を改定したので2023年度の拡大に向けても景気づけとして受賞できたら光栄です。

一般社団法人
町田青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

このようなアワードに拡大部門でノミネートされて光栄です。202年の一般社団法人町田青年会議所は持続可能な拡大運動を掲げ、期首64名スタートから61名の会員拡大を実現しました。良い結果が出るよう祈っております。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

純増部門
優秀拡大LOM賞
110名以下の部

純増部門 優秀拡大LOM賞
110名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
佐賀青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

我々佐賀青年会議所は公益社団法人日本青年会議所2025年度第74回全国大会佐賀大会を昨年獲得致しました、しかし2022年度メンバーで開催年度に在籍するメンバーは30名程度、アカデミーメンバーでの大会運営が必須となります。拡大は重要な課題でもあり仲間を増やしてせっかくのこの学びの機会を広げるのが大切だと考えております。

一般社団法人
鳥取青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

全力で1年間「一念通天」と「LOVE & PESCE」の気持ちをもってやり遂げました。
最近拡大により若い会員が増えていってます！これからも拡大頑張っていきます！

公益社団法人
福井青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2020年度より会員純増を続けてまいりました。
創立60周年そしてその後の歩みを強くするべく会員拡大に取り組んでまいりましたところ、このようなノミネートを受けて光栄であります。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

純増部門
優秀拡大LOM賞
111名以上の部

純増部門 優秀拡大LOM賞
111名以上の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
札幌青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

コロナ禍においても、自己の成長や人とのつながりを求めて入会されたメンバーに感謝します。

公益社団法人
鹿児島青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

AWARDS　JAPAN2022拡大部門ノミネートありがとうございます。拡大は鹿児島青年会議所のファンを一人でも多く作ろうとの想いで取り組んできました。今後も引き続きファンを増やせるよう邁進してまいります。

公益社団法人
埼玉中央青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

昨年に続き、2年連続のノミネートは大変嬉しく思います。JCI埼玉中央は全国大会を経験したLOMとして、この5年間、会員拡大の歩みを止めることなくやってきました。20代や女性の入会の推進など、JCが抱える問題にも試行錯誤しながら取り組んでいることが、評価してもらえたら嬉しく思います。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

単年度部門
優秀拡大LOM賞
20名以下の部

単年度部門 優秀拡大LOM賞
20名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
西条青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

今後10年、20年と続けられる組織として、2022年は対外事業に注力しつつ、固定費・事業費を大きく見直しました。そして、会員拡大を推進し人財の確保と成長の機会の創出を図りました。コロナ禍ではありましたが、多くの新入メンバーに感謝し、そしてLOMでは会員拡大室室長として、ブロックでも会員拡大研修委員会委員長として、愛媛県内で多大な功績を積まれました、岡本浩揮くんに感謝しております。この達成を機に、1人では達成できない目標でも、チームで実践すれば必ず成功すると信じ、意識変革団体として、率先できるリーダーとして今後も活動してまいります。

一般社団法人
東伯青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度の頑張りに感謝です。新入会員の私はその背中を追いかけます。

一般社団法人
鉾田青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度、鉾田青年会議所は1名ではじまり茨城ブロックの支援、JCI鉾田OBの賛同、協力を得てゴールデンゴングを目指してやって参りました！お力添えをいただいた全ての皆さまに感謝をお伝えしたいです！誠にありがとうございました！

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

単年度部門
優秀拡大LOM賞
30名以下の部

単年度部門 優秀拡大LOM賞
30名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

公益社団法人
青森青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

ノミネートいただきありがとうございます。今年度は会員数が29名スタートということで、拡大に今まで以上に力を入れてきました。その結果がこのように反映されとても嬉しく思っております！それでもまだまだ会員数は多くはありません。来年以降も引き続き拡大を頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします！

一般社団法人
かずさ青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

ありがとうございます。愛に尽くした2022年度でした。2023年度も社会により良い運動を展開してまいります。

一般社団法人
羽生青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

この度はAWARDS JAPAN2022にノミネートしていただき誠にありがとうございます。2022年度「構築」を掲げメンバーと共に高い志のもと協力し合った結果がこの様な素晴らしい賞をいただけたと思っております。この勢いを止めることなく来年もまたノミネートされるように努めていきます。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

単年度部門
優秀拡大LOM賞
50名以下の部

単年度部門 優秀拡大LOM賞
50名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
桐生青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

100人LOMを目指して2022年をがむしゃらに突っ走ってきました！
受賞した暁にはLOMのみんなで盛大にお祝いして京都を楽しみます！

一般社団法人
おおさき青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

受賞できるよう精進致します。

一般社団法人
山城青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度の跳躍を活かし、2023年度もさらに会員拡大し、超越します！！

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

単年度部門
優秀拡大LOM賞
75名以下の部

単年度部門 優秀拡大LOM賞
75名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
東大阪青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

皆様に感謝！

一般社団法人
町田青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

このようなアワードに拡大部門でノミネートされて光栄です。2022年の一般社団法人町田青年会議所は持続可能な拡大運動を掲げ、期首64名スタートから61名の会員拡大を実現しました。良い結果が出るよう祈っております。

一般社団法人
泉青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

ノミネート誠にありがとうございます。会員拡大こそがJC運動の最たるものとして、メンバー一丸となり全員拡大で進めてまいりました。会員拡大に終わりはありませんので、地域を想い共に活動する同志を今後も発掘し続けてまいります。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

単年度部門
優秀拡大LOM賞
110名以下の部

単年度部門 優秀拡大LOM賞
110名以下の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
高槻青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年、拡大委員会の委員長として、拡大運動の構築を必死に頑張って参りました。来年、近畿地区協議会でLOM支援という担いを預からせて頂いてます。90LOMをターゲットにするにあたり今回ノミネートされた想いを発信して行きたいと思います。

公益社団法人
春日井青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

辛いことも大変なことも沢山ありましたが、毎日コツコツ候補者の方に会いに行き、毎月コツコツ交流会を開催し、メンバーと一緒に楽しく拡大活動ができたと思います。拡大活動を通じて、生まれたたくさんの出会いに感謝しています！協力してくれたすべての人の期待にこたえるためにも、絶対グランプリを獲得したいです！！

一般社団法人
寝屋川青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

この拡大事業にノミネートされたことをLOM全体で喜びを感じ
2022年度以降も同志に拡大意識を強く持っていただければと思います。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

単年度部門
優秀拡大LOM賞
111名以上の部

単年度部門 優秀拡大LOM賞
111名以上の部

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
神戸青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

このような賞にノミネートされ、本当に光栄です。JCI神戸における2022年度の拡大活動は、LOMに対する運動への理解と共闘を求め、共感の拡大からはじまりました。「全員で拡大」をモットーに過去に類を見ない紹介者数が集まり、まさにLOM全員での総力戦であったと思います。この場を借りてJCI神戸メンバーには改めて感謝申し上げます。

一般社団法人
枚方青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

今回ノミネートされたことに大変嬉しく思います。本年度は93名の同志を迎え入れることができました。内53名が25歳～34歳の会員であり、5年後10年後に「今」を伝えてくれると信じています。当日は楽しみにしておりますので宜しくお願いいたします。

公益社団法人
相模原青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

自己の成長を望み、家族・仕事・地域をより良くしたいと思う同志を募り3年連続の35パーセント拡大、純増を成し遂げました。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

拡大褒賞
理念共感拡大賞

拡大褒賞
理念共感拡大賞

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
神戸青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

拡大活動は、JCの理念に対して共感の輪を拡げる活動でした。勧誘や説得することもなく、誇りあるJCI神戸の活動を素直にリコメンドすることで理念浸透型の拡大をおこなうことができました。またLOMとして拡大への共感と共鳴がひびきあい、全員で拡大できたことに心より感謝いたします。

公益社団法人
相模原青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

自己の成長を望み、家族、仕事、地域をより良くしたいと思う同志を募り3年連続の35パーセント拡大、純増を成し遂げました。

一般社団法人
泉青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

ノミネート誠にありがとうございます。会員拡大こそがJC運動の最たるものとして、メンバー一丸となり全員拡大で進めてまいりました。会員拡大に終わりはありませんので、地域を想い共に活動する同志を今後も発掘し続けてまいります。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

拡大褒賞
多様性拡大賞

拡大褒賞
多様性拡大賞

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
おおさき青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

受賞できるよう精進致します。

公益社団法人
春日井青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

辛いことも大変なことも沢山ありましたが、毎日コツコツ候補者の方に会いに行き、毎月コツコツ交流会を開催し、メンバーと一緒に楽しく拡大活動ができたと思います。拡大活動を通じて、生まれたたくさんの出会いに感謝しています！協力してくれたすべての人の期待にこたえるためにも、絶対グランプリを獲得したいです！！

一般社団法人
もとみや青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

AWARDS JAPAN2022にノミネートいただき、ありがとうございます。JCIもとみやは過去5年間で2回、事業部門でAWARDSを受賞させていただいておりましたが、今回は拡大部門でのノミネートということで、大変嬉しく思います。2022年度は特に会員拡大に力を入れてきました。AWARDS受賞はJC活動をする上で一つの目標でありますので、受賞できることを祈ってAWARDS　JAPAN2022に臨みたいと思います。

AWARDS JAPAN 2022

Junior Chamber International

拡大褒賞
LOM支援賞

拡大褒賞
LOM支援賞

2022年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人
西条青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

今後10年、20年と続けられる組織として、2022年は対外事業に注力しつつ、固定費・事業費を大きく見直しました。そして、会員拡大を推進し人財の確保と成長の機会の創出を図りました。コロナ禍ではありましたが、多くの新入メンバーに感謝し、そしてLOMでは会員拡大室室長として、ブロックでも会員拡大研修委員会委員長として、愛媛県内で多大な功績を積まれました、岡本浩揮くんに感謝しております。この達成を機に、1人では達成できない目標でも、チームで実践すれば必ず成功すると信じ、意識変革団体として、率先できるリーダーとして今後も活動してまいります。

一般社団法人
東伯青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度の頑張りに感謝です。新入会員の私はその背中を追いかけます。

一般社団法人
鉾田青年会議所

～AWARDS JAPANにノミネートされた意気込み～

2022年度、鉾田青年会議所は1名ではじまり茨城ブロックの支援、JCI鉾田OBの賛同、協力を得てゴールデンゴングを目指してやって参りました！お力添えをいただいた全ての皆さまに感謝をお伝えしたいです！誠にありがとうございました！

アンケートにご協力ください

Please cooperate with the questionnaire